

TORQ MIXLAB™ Digital DJ System

M-AUDIO®



日本語

ユーザーズ・マニュアル

Chapter 1	3	Chapter 6	26
ようこそ	3	外部コントロール	26
TORQ LEの概要	4	MIDIプリファレンス	26
デッキ	5	MIDIラーン	27
Main Waveform Display (メイン波形ディスプレイ)	5	MIDI割当てを作成する	27
Mixer (ミキサー)	5	MIDI割当てを解除する	27
PFL/Headphone Cue (PFL/ヘッドフォン・キュー)	6	MIDI割当てを変更する	27
Browser/Database (ブラウザ/データベース)	6	キーボード・ラーン	27
Effect Racks (エフェクト・ラック)	6	ボタンをノブやスライダに割当てる	27
Master Module (マスター・モジュール)	6	ノブやスライダをボタンに割当てる	27
Chapter 2	7	Chapter 7	28
システム必要環境	7	ブラウザ/データベース	28
Windows	7	Browser (ブラウザ) ウィンドウ	28
Mac	7	Database (データベース)	29
インストールの方法	8	File List (ファイル・リスト)	31
フィールドを編集する	31	アーティスト/ソング・ファイル名交換	31
ソングをデッキにロードする	32	ソングを分類する	32
リストを分類する	32	リストを検索する	33
リストを検索する	33	Playlists (プレイリスト)	34
Session Playlist (Sessionプレイリスト)	37	iTunes	38
iPods	39	iPods	39
Drives (ドライブ)	39	Drives (ドライブ)	39
Audio CD (オーディオCD)	39	Audio CD (オーディオCD)	39
Chapter 3	9	Chapter 8	40
DECKS (デッキ)	9	MIXER (ミキサー)	40
Displays (ディスプレイ)	9	Mixer Architecture (ミキサー・アーキテクチャ)	40
ソング名	9	Channels (チャンネル)	40
アーティスト名	9	Gain/Mute (ゲイン/ミュート)	40
Time Elapsed (経過時間)	10	EQ/Kills (EQ/キル)	41
Time Remain (残り時間)	10	PFL/Headphone Cue (PFL/ヘッドフォン・キュー)	41
Overview Waveform (オーバービュー波形) ディスプレイ	10	Channel Volume (チャンネル/ボリューム) フェーダ	42
Controls (コントロール)	10	Crossfader (クロスフェーダ)	42
Play/Pause (再生/ポーズ)	10	Chapter 9	44
Seek (シーク)	10	PFL/HEADPHONE CUE (PFL/ヘッドフォン・キュー)	44
Cue (キュー)	11	Volume Control (ボリューム・コントロール)	44
QuickCue (クイックキュー)	11	Split (スプリット) ボタンとSource (ソース) ノブ	44
Deck Mode (デッキ・モード)	12	Chapter 10	45
Looping (ループ・ピンク)	12	MASTER OUTPUT (マスター出力)	45
Speed Slider (スピード・スライダ)	14	Volume Control (ボリューム・コントロール)	45
Key (キー)	16	Level Meter (レベルメータ)とLimiter (リミッター)	45
Sync (シンク) ボタン	18	Master Recorder (マスター・レコーダー)	45
Nudge (ナッジ) ボタン	18	Filename (ファイル名)	46
Offset (オフセット) ボタン	19	録音レベルを設定する	46
録音する	46	Chapter 11	47
Chapter 4	20	EFFECTS (エフェクト)	47
WAVEFORM DISPLAY (波形ディスプレイ)	20	Controls (コントロール)	47
ディスプレイに表示される情報	20	Enable (有効) ボタン	47
Waveform (波形)	20	Tweak (ツイーク) ノブ	47
Loop Points (ループ・ポイント)	21	Tweak Button (ツイーク) ボタン	47
Cue Points (キュー・ポイント)	21	搭載されているエフェクト	48
Phase Grid (位相グリッド)	21	Phaser (フェーザー)	48
ソング再生を操作	21	Dual-Filter (デュアル・フィルタ)	48
Vinyl (ヴァイナル) モード	21	Strobe (ストロボ)	49
Hybrid (ハイブリッド) モード	22		
CDJモード	22		
Chapter 5	23		
SYNCHRONIZATION (同期)	23		
Automatic Tempo and Phase Detection (自動テンポと位相の検知)	23		
Phase Grid Manipulations (位相グリッドの操作)	23		
マウスで調整する	24		
Nudge (ナッジ) ボタンで調整する	24		
Offset (オフセット) ボタンで調整する	24		
Sync (シンク) ボタン	25		
Locked (固定) シンク	25		
Momentary (一時) シンク	25		

Chapter 12	50
PREFERENCES (プリファレンス)	50
Audio Tab (オーディオ) タブ	50
Audio Interface (オーディオ・インターフェイス)	50
Sample Rate (サンプリング・レート)	51
Buffer Size (バッファ・サイズ)	51
MIDIタブ	52
Auto-Detect M-Audio Devices ([On]/Off) (M-Audio機器の自動検知 (オン/オフ)	52
Scratch Sensitivity (スクラッチ感度)	52
Crossfader Curve Control (クロスフェーダ・カーブ・コントロール)	53
MIDI SHIFT Key (MIDIシフト・キー)	53
MIDI Devices (MIDI機器)	53
Miscellaneous (その他) タブ	54
Torq Engine (Torqエンジン)	54
Cue Exclusivity (キュー・エクスクルーシビティ)	54
Schaffel Mode (シャッフル・モード)	55
QuickLoop Size (クイックループ・サイズ)	55
Search iPod with Database (データベースでiPodを検索)	55
Search iTunes Library with Database (データベースでiTunesを検索)	55
Transport Mode (トランスポート・モード)	55
Tooltips (ツールチップ)	55
Sync Mode (シンク・モード)	56
Skin (スキン)	56
Chapter 13	57
X-SESSION PROについて	57
コントローラとコネクタ	58
トップパネル	58
リアパネル	59
Chapter 14	60
付録	60
Preset Key Assignments (プリセット・キー割当て)	60
グローバルなキーコマンド	60
Windowsのキー・コマンド	60
Macのキー・コマンド	60
製品保証	61
保証規定	61
ユーザー登録	61

M-AUDIO

ようこそ

M-AudioのTorq MixLab DJシステムをお買い上げ頂きまして誠に有り難うございます。M-Audioは、コンピュータ・ベースのミュージシャンやDJ向けのプロフェッショナルなミュージック・プロダクトのリーディング・プロバイダです。Torq MixLabは、正に歴史的製品であり、世界中のプロフェッショナルが日常的に使用する物と同様な最適な製品です。Torq MixLabならコンピュータに収納したデジタル・オーディオ・ファイルのコレクションを使用してDJ演奏をすることができます。DJ演奏を録音してCDに焼いたりメディア・プレイヤー等の携帯端末にコピーすることもできます。

Torq MixLabは、Torq LEソフトウェアとM-Audio X-Session Pro DJコントローラの2つで構成されます。Torq LEは、フル装備のDJソフトウェアで高価なCDJやターンテーブルに搭載される機能を全て装備しています。Torq LEは、様々なスピードやピッチで音楽を再生し、自動的にソングのテンポを一致させることができ、次のトラックへスムーズに移行することができます。ルーピングやソング内で別の時点に瞬間移動する等のリミックスの技を使用することができます。またTorq LEでは音楽にエフェクトを加えてソングのミックスを完全にコントロールすることができます。

M-Audio X-Session Proは、Torq LEのハンズオンなコントロールを可能にします。X-Session ProをコンピュータのUSB端子に接続すれば、Torq LEはX-Session Proを即座に認識します。X-Session Proのコントローラを動かすと画面上の対応するコントローラが同様に動きます。一度に1つの作業しかできないマウス操作とは対照的に、複数のタスクをコントローラで同時に処理することができるのでこれはDJ演奏には最高の方法と言えます。DJミキサーの基本操作に不慣れな場合は、第13章でX-Session Proのノブ、ボタン、スライダ等、それぞれについての詳細を参照して下さい。

DJ演奏はアートです。他のどんなアートとも同様に上達するには練習が必要です。Torq MixLabパッケージには、習得過程を一気に進めることができる多くの機能が装備されています。本クイックスタートガイドでは、Torq MixLabシステムの基本的な機能を説明しDJ演奏のアートに対する見識を深めるものです。Torq MixLabについて熟知することで、プロが使用するツールを使いこなす準備は完了です。

Chapter

1

ようこそ	3
TORQ LEの概要	4
デッキ	5
Main Waveform Display (メイン波形ディスプレイ)	5
Mixer (ミキサー)	5
PFL/Headphone Cue (PFL/ヘッドフォン・キュー)	6
Browser/Database (ブラウザ/データベース)	6
Effect Racks (エフェクト・ラック)	6
Master Module (マスター・モジュール)	6

TORQ LEの概要

Torq LEは、Mac OS XやWindows XPコンピュータ向けのDJツールやテクニックをソフトウェアの形で予想し拡張したものです。Torq LEは、ハードウェアの範囲に制約されることなく、オーディオ制作ソフトウェアの最新技術を採用するばかりか、自分が音楽の一部とさえ感じられるよう融合します。ソング・コレクションをこのレベルで制御することは、多面的な課題でありTorq LEにはそれぞれの面を処理するための専門的なコントローラや機能が数多く装備され、ユーザー・インターフェイスから巧みにアレンジ/アクセスすることができます。このセクションでは、Torq LEの特徴の概要とお手持ちのデジタル・ミキシング・ツールやテクニックにどのように役立つかを説明します。

The screenshot displays the Torq LE software interface. At the top, it shows the 'synchronscience by M-AUDIO torq' logo and a 5.0s timer. The main area is split into two track decks. The left deck is for 'Somnambulist BT' and the right for 'Tracking Treasure Down (Cl... Gabriel & Dresden)'. Both decks feature transport controls (play, stop, cue, solo, etc.), a speed control (BPM 136.0), and various effects like Filter, Band, Phaser, and Strobe. A central mixer section includes Gain, High, Mid, Low, and Xfade controls. At the bottom, there is a track browser with columns for Artist, Song, Album, Track #, BPM, Key, Genre, Length, and Comment.

BROWSER	ARTIST	SONG	ALBUM	TRACK #	BPM	KEY	GENRE	LENGTH	COMMENT
Database	Aloe Blacc	Baller	Torq Traqs	10	113.0			4:12	
Database	Audion	Mouth To Mouth	Torq Traqs	10	125.0			8:27	
Database	BT	Somnambulist	Torq Traqs	3	136.0			4:21	
Database	Carmen Rizzo	As The Day Breaks	Torq Traqs	9	122.0			5:38	
Database	East Coast Boogiemens & DJ Heather	Picture Of You (Ken's Drink On Jack Mix)	Torq Traqs	7	125.0			8:16	
Database	Gabriel & Dresden	Tracking Treasure Down (Club Mix)	Torq Traqs	11	135.0			10:10	
Database	Junior Sanchez	Superincumbent	Torq Traqs	11	135.0		Blues	6:56	
Database	Kero	Torq	Torq Traqs	9	125.0		House	8:16	000001AE 000001B1 000...
Database	Kraddy	Muertos	Torq Traqs	2	110.0			4:50	
Database	The Crystal Method	Defective	Torq Traqs	1	125.0			4:23	
Database	The Nova Dream Sequence	A Spirit Lost	Torq Traqs	4	130.0			6:01	

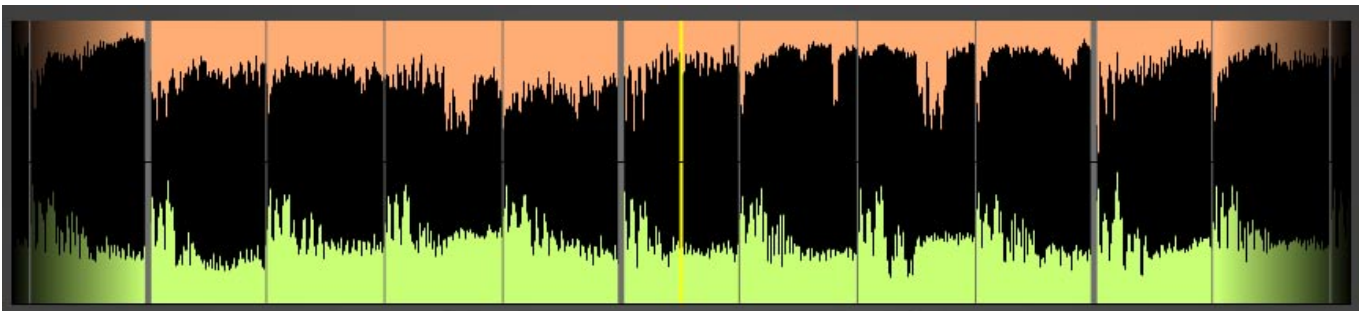
デッキ

DJ演奏は、音楽をプレイすることから始めるためTorq LEのデッキをよく知る必要があります。デッキは、Torq LEがデジタル音楽ファイルを再生するために使用するもので、DJが使用するターンテーブルやCDプレイヤーに相当します。デッキでは、トラックを再生したり、スピードを変更したり、キーを変更したり、また、ループिंगまたはソングの中で新たな場所へジャンプすることでリアレンジをすることができます。Torq LEには、デッキが画面の左右に1つずつ（合計2つ）装備されています。



Main Waveform Display (メイン波形ディスプレイ)

コンピュータ技術の素晴らしい利点の1つは、耳で聴くオーディオを「視覚化」できることです。波形ディスプレイは、それ自体の外観が興味深いだけでなくDJ演奏にとっては非常に貴重なツールです。Torq LEのユーザー・インターフェイスは、画面上部の中心にひと際目立つ2つの波形があり、各波形は左右それぞれのデッキに連動します。スクロールするこれらの波形は、トラックのシンク（同期）、サウンドの場所の検索、ブレークダウンの予想等、様々な目的に使用します。



Mixer (ミキサー)

全ては「ミックスの中にある」とも言われますが、Torq LEのミキサーはその期待に応えます。ミキサーは、2つのデッキからオーディオを取り込みボリューム・コントロール、オーディオ・イコライザー、クロスフェーダを利用してサウンドをコントロールすることができます。2つのデッキと1つのミキサーはDJにとって不可欠なツールです。



PFL/Headphone Cue (PFL/ヘッドフォン・キュー)

DJが使用する一般的な技は、トラックをオーディエンスに聞かせることなく事前にヘッドフォンで試聴することです。現在のソングに次のソングのテンポを合わせ、そのソングの正確な開始位置を見つけるために行うものです。Torq LEは、ヘッドフォンで各デッキをモニタリングでき、通常は高品位のDJミキサーのみに装備されているステレオ・ヘッドフォン・スプリット機能を搭載します。



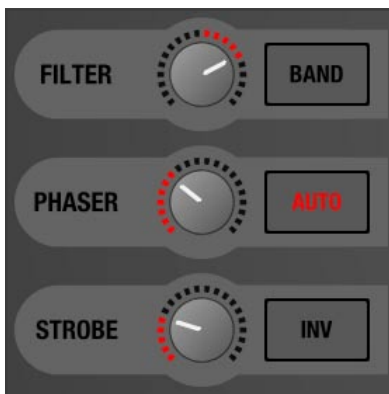
Browser/Database (ブラウザ/データベース)

DJ演奏の第3番目の要素は、「音楽」しかもたくさんの音楽です。自分の膨大な音楽コレクションを完全に掌握するために、Torq LEにはトラックのカタログ作成と検索のDatabase (データベース) 機能を装備しています。これにより任意のフォルダをモニターし今後のパフォーマンスのためのプレイリストを作成することができます。

BROWSER	ARTIST	SONG	ALBUM	TRACK #	BPM	KEY	GENRE	LENGTH	COMMENT
Database	jido-genshi	Buddha Bounce	Outward RefleXtions	1			Big Beat	0:48	Copyright 2003 Genshi Med...
Playlists	jido-genshi	Slammin (bigbeat mix)	Outward RefleXtions	2			Big Beat	0:48	Copyright 2003 Genshi Med...
iTunes	M-Audio	Premium Acoustic Guitar	Premium Instruments						
prod	M-Audio	Premium Instruments Electric P	Premium Instruments						00000230 0000021A 0000...
Music	M-Audio	Premium Instruments Electric P	Premium Instruments						00000220 0000021F 0000...
Desktop	M-Audio	Premium Instruments Grand Pian	Premium Instruments						0000013F 0000010A 0000...
Macintosh HD	M-Audio	Studio Drums	Premium Instruments						
	M-Audio	Premium Instruments Vintage Ke	Premium Instruments						00000357 00000357 0000...

Effect Racks (エフェクト・ラック)

エフェクトは、自分の音楽を独特の方法で巧みに操作しミックスを充実させる手段です。Torq LEにはDJ用として特別にデザインされたデュアル・フィルタ、フェーザー、ストロボ等、エフェクトのコレクションが搭載されています。各デッキには、これらのエフェクトから最大3種類までを使用することができます。



Master Module (マスター・モジュール)

全ての微調整が終了しミックスが完成したら、その結果のオーディオはマスター出力へ送信されます。Torq LEには、音楽のディストーションを防ぐ自動出力リミッターと、演奏しながら最終ミックスをファイルへレコーディングするためのモジュールが搭載されています。演奏をCDに焼いたり、ポッドキャスト用にMP3に変換することもできます。



M-AUDIO

システム必要環境

Windows :

最低システム必要条件

OS : Windows XP (SP2)
 CPU : Pentium III 933MHz以上
 RAM : 256MB以上
 USB : コンピュータに搭載されたUSB端子
 (X-Session Proで使用)

推奨システム必要仕様

OS : Windows XP (SP2)
 CPU : Pentium IV 2GHz (以上)
 RAMP : 1GB以上
 USB : コンピュータに搭載されたUSB端子
 (X-Session Proで使用)
 ハードディスク : 7200回転以上

Mac* :

最低システム必要条件

Mac OS X 10.4.6以降
 CPU : G4 1.25GHz以上
 RAM : 512MB以上
 USB : コンピュータに搭載されたUSB端子
 (X-Session Proで使用)

推奨システム必要条件

ノートパソコン :

OS : Mac OS X 10.4.7以降
 CPU : Mac/Intel Core Duo 1.83GHz以上
 RAM : 1GB以上
 USB : コンピュータに搭載されたUSB端子
 (X-Session Proで使用)
 ハードドライブ : 7200回転以上

デスクトップ

OS : Mac OS X 10.4.7以降
 CPU : Dual G5 2GHz以上
 RAM : 1GB以上
 USB : コンピュータに搭載されたUSB端子
 (X-Session Proで使用)
 ハードドライブ : 7200回転以上

* Power Mac G4では、Torq LEを使用する前にオーディオ・ファイル全てをアナライズしておくことを強く推奨します。

Chapter

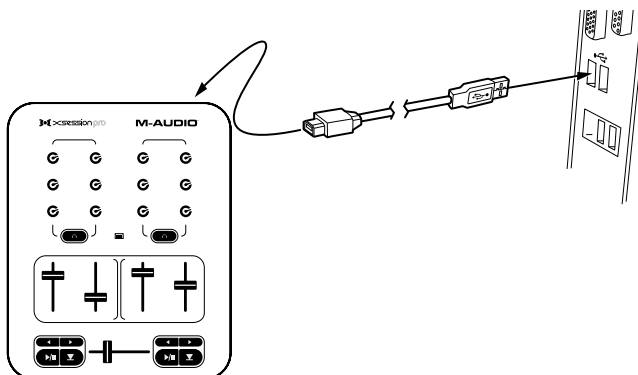
2

システム必要環境	7
Windows	7
Mac	7
インストールの方法	8
Windows XP	8
Mac OS X	8

インストールの方法

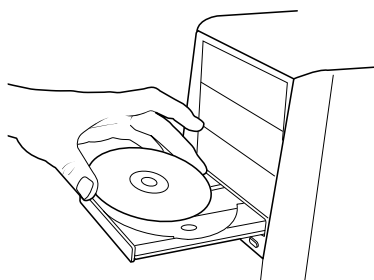
Windows XP

最初に同梱されたUSBケーブルを使用してコンピュータのUSB端子にX-Session Proを接続します。Torq LEを起動する前にX-Session Proがコンピュータに接続されている必要があります。



Torq LE をWindows XP にインストールする:

1. Torq MixLab CD-ROM をコンピュータに挿入します。CD-ROM を挿入するとインタラクティブなインストール画面が自動的に表示されます。自動的にインストール画面が表示されない場合、スタート>マイコンピュータ>Torq MixLab の順にクリックします。
2. メニューから製品名を選択して「Install(インストール)」をクリックします。



3. 画面の指示に従い、インストールを続けます。
4. インストールが完了したら「Finish(終了)」をクリックします。
5. その後Torq LE を起動します。

以上でインストールは完了しTorqが使用できるようになりました。

以下のチュートリアルに含まれる使用例を参照して操作方法について理解を深めて下さい。



Torq LEをMac OS Xでインストールする:

1. コンピュータのCD-ROM ドライブにTorq MixLab CD-ROM を挿入します。
2. CD-ROM を挿入するとデスクトップにCD-ROM のアイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックするとCD-ROM の内容が表示されます。
3. 「Open Me」のアイコンをダブルクリックします。
4. メニューから「Torq LE」を選択し「Install(インストール)」をクリックします。



Torq MixLab



Open Me



5. 新しいウィンドウが開き、Torq LE のアプリケーション・ファイルを保存する場所を聞かれますので、場所を選択して「Install here」をクリックします。
6. インストールが終了すれば「Close」をクリックします。
7. その後Torq LE を起動します。

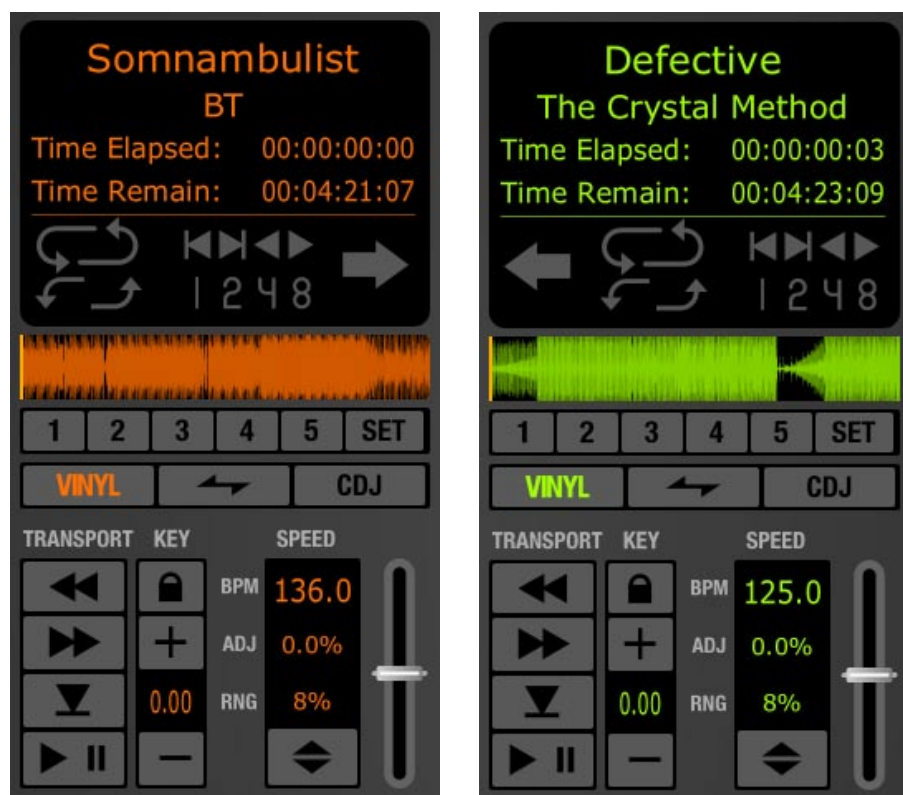
M-AUDIO

DECKS (デッキ)

DJ演奏は、全てDeck (デッキ) から始まります。Deck (デッキ) は、Torq LEの全てのツールを使用してミックスしたりエフェクトを加え演奏することができます。一般的なDJのデッキは、ターンテーブルまたはCDプレイヤーです。これ故に、Torq LEのデッキはターンテーブルとCDプレイヤーの両方を模倣し、またソフトウェアでのみ実現できる特別なハイブリッド・モードを提供できるよう設計されています。

Displays (ディスプレイ)

各デッキでは、インターフェイス全般に様々な情報画面が配置されています。これらの画面は、演奏中のソング名、演奏時間、残り時間等の情報を表示するためのものです。



ソング名

デッキの一番上は現在のソング名が表示されます。ソングのカテゴリ (File List参照) に書かれているものです。ソング名がFile List (ファイル・リスト) にリストされていない場合は、その代わりに実際のファイル名が表示されます。

アーティスト名

ソング名のすぐ下はアーティスト名が表示されます。ソング名と同様にFile List (ファイル・リスト) のArtist (アーティスト) のカテゴリに記述がなければ、このフィールドは空白になります。

Chapter

3

DECKS (デッキ)	9
Displays (ディスプレイ)	9
ソング名	9
アーティスト名	9
Time Elapsed (経過時間)	10
Time Remain (残り時間)	10
Overview Waveform (オーバービュー 波形) ディスプレイ	10
Controls (コントロール)	10
Play/Pause (再生/ポーズ)	10
Seek (シーク)	10
Cue (キュー)	11
QuickCue (クイックキュー)	11
Deck Mode (デッキ・モード)	12
Looping (ループング)	12
Speed Slider (スピード・スライダー)	14
Key (キー)	16
Sync (シンク) ボタン	18
Nudge (ナッジ) ボタン	18
Offset (オフセット) ボタン	19

Time Elapsed (経過時間)

このフィールドには、ソングの現在の位置でOverview Waveform Display (オーバービュー波形ディスプレイ) に黄色で描かれたCurrent Position Marker (現在の位置を示すマーカー) に示されます。現在の時間は、時/分/秒/フレーム (30fps) で表示されます。現在の位置を示すマーカーがソングの開始位置にある場合は、現在の時間は0:0:0と表示されます。

Time Remain (残り時間)

このフィールドには、ソングが終わるまでにどれだけ時間が残っているかを表示します。ソングの最初では残り時間はソング全体の長さになります。デッキの演奏中は残り時間がカウントダウンされます。

注意: オーバービュー/移動波形ディスプレイは、ソングの残り時間が30秒未満になると点滅を始めます。次に演奏するソングを準備する必要がありますを示します。

Overview Waveform (オーバービュー波形) ディスプレイ

各デッキには、オーバービュー波形ディスプレイが装備されソング全体が一目でわかるミニチュア版の波形が表示されます。このディスプレイは、以下の目的に使用されます:

1. ソング内のブレークダウンや変化の位置を発生前に気付くことができます。
2. 黄色のNow Lineによりソング内の現在の位置を表示します。
3. QuickCue (クイック・キュー) ポイント (次項) を波形上に乗せることができます。
4. 波形上をクリックすると、その位置から再生が始まります。

Controls (コントロール)

前述の通り、デッキの目的は音楽ファイルを再生することで、iTunesやWinAmpがコンピュータでオーディオ・ファイルを演奏するのと同様です。しかしながら、DJ演奏の目的はこれに留まりません。DJは、スピードやソングのキーを変更したり、オーディオのセクションをループしたり、ソング内で他の位置にジャンプしたりと、より詳細に音楽の演奏をコントロールする能力を必要とします。これによりDJは、ミックス中に様々なソングのテンポに合わせたりソングをアレンジ (本質的にはソングのライブミックスを作成) することができるのです。Torq LEのデッキは、以下に説明するコントロールを使用してこれらの作業をこなします:

Play/Pause (再生/ポーズ)

ソングを再生/一時停止するには、再生/ポーズのボタンをクリックします。デッキにソングをロードして再生/ポーズ・ボタンを押せばソングは開始します。再生/ポーズ・ボタンを再び押すと音楽は一時停止します。

注意: 音楽を停止してもソングは開始位置に戻らず停止した位置に留まります。ソングを開始位置に戻すには、後述のSeek (シーク) コントロールを使用します。

Seek (シーク)

ソングを早送り/巻戻しするには、シーク・ボタンを使用してソングを早送りまたは巻戻しして、ソング内で再生を開始する特定の位置を検索することができます。

1. 早送り/巻戻しボタンを短くクリックすると、クリックしたボタンの矢印の方向へ僅かだけジャンプします。
2. 早送り/巻戻しボタンをクリックしてホールドすると、Torqはソングをスクロールしボタンをホールドしている間中スクロールを続けます。ボタンから指を離すとスクロールは停止します。
3. ソングの始めまたは終わりにジャンプするには、Shiftキーを押しながらシーク・ボタンを押します。



Cue (キュー)

キュー・ボタンは、ソング内で任意の主要キュー・ポイントを設定します。キュー・ポイントとは、トラック内を探しまわる必要なしに即座にキュー・アップ (アクセス) することのできる、トラック内の基準となるポイントです。一般的にDJは、ソングの中でビートが始まる位置にキュー・ポイントを設定します。波形画面では赤で表示されます。キュー・ボタンは、以下のルールが適用されます。

1. ソングの再生中にキュー・ボタンを押すと、ソングはキュー・ポイントにジャンプしてポーズ (一時停止) します。
2. 再びキュー・ボタンを押してホールドするとソングはキュー・ポイントから再生を開始します。ソングは、キュー・ボタンから手を離れた位置で停止しキュー・ポイントにジャンプして戻ります。
3. ソングが既存のキュー・ポイント以外の位置で停止中にキュー・ボタンを押すと、現在の位置にキュー・ポイントが設定されます。

注意: X-Session Proでは、Torq LEのPlay/Pause (再生/ポーズ)、Seek (シーク)、Cue (キュー) ボタンのハンズオンな操作性を提供します。つまり、コンピュータやマウスに触れることなくこれらのボタンにアクセスすることができるものです。第13章でX-Session Proについての詳細を確認して下さい。

QuickCue (クイックキュー)

前述の主要キュー・ポイントに加えて、Torq LEではソング内にQuickCue (クイック・キュー) ポイントを5箇所まで設定することができ、オーバービュー波形ディスプレイの下にあるQuickCue (クイック・キュー) ボタンに割当てることができます。これらのボタンを使用してそれぞれのQuickCue (クイック・キュー) ポイント間を素早くジャンプすることができます。

■ クイック・キューを設定する

QuickCue (クイック・キュー) ポイントを設定する方法は幾つかありますが、いずれの方法でも同じ結果が得られます。

1. クイック・キューのSet (設定) ボタンをクリックし、続いて任意のQuickCueボタンの番号を押します。QuickCueポイントは、現在の位置 (デッキが演奏中でも停止中でも実行できます) に設定されます。QuickCueポイントが追加されるとオーバービュー波形ディスプレイに番号と共に表示されます。
2. Shiftキーを押しながら任意のQuickCueボタンの番号を押します。QuickCueポイントは、現在の位置 (デッキが演奏中でも停止中でも実行できます) に設定されます。QuickCue (クイック・キュー) ポイントが追加されるとオーバービュー波形ディスプレイに番号と共に表示されます。

注意: 既に特定の位置に設定されている任意のボタンにQuickCue (クイック・キュー) を割当てると、既存のQuickCue (クイック・キュー) の位置は新しいQuickCue (クイック・キュー) の位置により上書きされます。

■ クイック・キューを再生する

QuickCue (クイック・キュー) ポイントを幾つか設定したら、設定済みのQuickCue (クイック・キュー) ボタンを押すとデッキは即座にその位置へとジャンプします。QuickCue (クイック・キュー) ポイントをソング内のキーとなるポイントに設定しておけば、コーラスやイントロ等にジャンプする等、一瞬で様々なセクションにジャンプすることができます。

注意: 各デッキに5箇所 (最大10箇所) ずつQuickCue (クイック・キュー) ポイントを設定することができます。これらのポイントは、コンピュータのキーボードの数値キーにマッピングされます。キーボードの1から5は、デッキAのQuickCue (クイック・キュー) 番号1から5に対応します。キーボードの6から0は、デッキBのクイック・キュー番号1から5に対応します。キーボード上で数値キーを押すと、画面上で対応するQuickCue (クイック・キュー) ボタンをクリックするのと同じ効果があります。また、マウスを使わずにコンピュータの数値キーを押すことによりQuickCue (クイック・キュー) ポイントを設定することができます。



Deck Mode (デッキ・モード)

Torq LEのデッキには、3種類のモードが装備され全てのスタイルのDJに対応します。

■ Vinyl (ヴァイナル) モード

このモードを選択すると、デッキはターンテーブルと同様の方法で動作をします：

1. Play/Pause (再生/ポーズ) ボタンを押すと再生は一時停止しターンテーブルでストップボタンを押すのと同様にオーディオが停止します。
2. 移動波形ディスプレイをクリックしてドラッグするとヴァイナルをスクラッチするような音になります。

■ CDJモード

CDJモードでは、デッキはCDJプレイヤーと同様の操作ができます：

1. 再生/ポーズ・ボタンを押すと再生が一時停止し、オーディオの小さいセクションが自動的に繰り返します。再生/ポーズを再び押すとリピートの開始部分から再生が再開します。
2. オーディオがリピートしている間に移動波形をクリックしてドラッグすると、開始位置を移動させることができます。操作中にはリピートされる部分が変化するのを聴くことができます。
3. デッキが再生中に移動波形をクリックしてドラッグしてもオーディオは停止しません。左右にドラッグすると、その代わりにトラックの再生速度を補正することができます。もう一方のデッキとビート・マッチングしている場合、トラックを整列させることができます。

■ Hybrid (ハイブリッド) モード

ハイブリッド・モードはCDJモードとヴァイナル・コントロール・モードを組み合わせたものです：

1. 再生/ポーズ・ボタンを押すと、ヴァイナル・モードと同様に再生が一時停止しオーディオが聞こえなくなります。
2. 一時停止中に移動波形をクリックしてドラッグするとヴァイナル・モードと同様にスクラッチ音が聞こえます。
3. 再生が有効な時、移動波形をクリックしてドラッグしてもオーディオは聞こえなくなります。その代わりに、CDJモードと同様に左右にドラッグするとトラックの再生速度を補正することができます。ビート・マッチングしている場合、もう一方のデッキに対しトラックを整列させることができます。

Looping (ルーピング)

テクノロジーは、常に進化するようDJ演奏も同じく進化しています。CDプレイヤーの導入により、DJはヴァイナルの領域で作業している時には不可能であった多くの新しいエキサイティングな機能を得ました。ルーピングはそのような機能の1つで、ソングの1つのセクションをリピートするだけの動作です。

DJ演奏のクリエイティブな特徴は、ルーピングのような単純なトリックが様々な方法で活用できることです。確かにルーピングを使用してアレンジを変化させソングをリミックスすることができ、ソングで特定の箇所を長くすることができます。ルーピングを「安全策」として使用し、ソングの最後を無限に延長し次のソングに入るまでのミックスの時間をかせぐことができます。ルーピングは、ソングの1つのセクションをブレイクビートのように孤立させ、その他のソングの上にレイヤーすることができます。

Torq LEでは、オーディオをループする方法が2つあります。ループの開始点と終点を手動で特定する方法と、QuickLoop (クイックループ) ボタンを使用して特定の長さのループを取り込む方法です。更にTorq LEでは、ループ・ポイントをソングのテンポに自動的に合わせることでよりパーフェクトなループを作ることができます。

■ Loop In/Out (ループ・イン/アウト)

ソング全体をループしてもDJにたいした利点はありませんが、Torq LEではLoop In (ループ・イン) ボタンとLoop Out (ループ・アウト) ボタンを使用してLoop Marker (ループ・マーカー) の位置を移動させることができます：

1. デッキにソングをロードしてPlayボタンを押すとソングは演奏を開始します。
2. 演奏がループを開始する位置まで進めばLoop In (ループ・イン) ボタンをクリックします。これによりNow Line (現在のソングの位置) にLoop In Marker (ループ・イン・マーカー) を設定し (メインの波形ディスプレイとオーバービュー波形ディスプレイには黄色のマーカーが表示されます)、ソングは演奏を続行します。Loop In Marker (ループ・イン・マーカー) は、ソングの波形内で最も近い位置にある16分音符に移動します。
3. ループの終点まで演奏が進めば、Loop Out (ループ・アウト) ボタンをクリックします。これにより、Loop Out Marker (ループ・アウト・マーカー) がNow Line (現在のソングの位置) に設定され最も近い位置にある16分音符に移動します。同時にLoop On/Off (ループ・オン/オフ) ボタンが自動的に有効になり演奏はLoop In Marker (ループ・イン・マーカー) の位置に戻ります。ソングは、この2つの時点を無限にループします。
4. ソング内でこのセクションのループを停止するには、Loop On/Off (ループ・オン/オフ) ボタンをクリックします。これにより再生がLoop Out Marker (ループ・アウト・マーカー) に達してもそのまま通過してソングの再生を最後まで続けます。

注意：ループが有効の時、任意のQuickCue (クイック・キュー) ボタンを使用して演奏の位置を変更すると、演奏は新たな位置にジャンプします。Torq LEでは、自動的にLoop In Marker (ループ・イン・マーカー) をその新たな位置に設定し、Loop Out Marker (ループ・アウト・マーカー) はQuickCue (クイック・キュー) ボタンを押す前に使用していたループの長さを維持する位置に移動します。

■ Loop On/Off (ループ・オン/オフ)

Loop (ループ) ボタンは、Torq LEがオーディオをループしているかどうかを表示します。ボタンが点灯していればTorq LEではルーピングが行われています。ループは、任意のQuickLoop (クイックループ) ボタンでトリガーしたもので、Loop In (ループ・イン) とLoop Out (ループ・アウト) ボタンを使用して手動でループを設定したもので構いません。Loopボタンをクリックするとルーピングのオンとオフを切り換えることができます。

■ QuickLoop (クイック・ループ)

DJは、大抵の場合偶数のビートまたはバーの長さのオーディオをループします。つまりDJがループするのは、1小節 (4ビート) または2小節 (8ビート) であり、また1または2ビートのマイクロループを行う場合もあります。Loop In (ループ・イン) とLoop Out (ループ・アウト) ボタンを素早く押してこれらの長さのループを作成する代わりに、Torq LEではQuickLoop (クイックループ) ボタンを使用してこれらのループにアクセスができます。

» QuickLoopを使用する

QuickLoopボタンでは、プリセットに設定された長さ分のソングのセクションを即座にループすることができます。デフォルトでは、QuickLoopボタンのそれぞれが1小節、2小節、4小節、8小節のループに対応します。ループを開始するセクションでこれらのボタンを押すと、Torq LEは自動的にLoop In Marker (ループ・イン・マーカー) とLoop Out Marker (ループ・アウト・マーカー) を適切な位置に配置します。

1. デッキにソングをロードしてPlayボタンを押します。
2. 「1」と書かれたQuickLoopボタンを押します。LoopボタンがオンになりLoop In MarkerはNow Line (現在のソングの位置) に配置されます。更にLoop Out Markerは、1小節分後に正確に配置され正確に1小節分のループが開始します。
3. Loopボタンを押してループをオフにします。Loop Out Marker (ループ・アウト・マーカー) の位置に達しても再生はそのまま続行します。

» QuickLoop (クイックループ) のサイズ・プリファレンス

上記に説明した通り、QuickLoop (クイックループ) ボタンのループのデフォルトの長さはそれぞれ1小節、2小節、4小節、8小節です。QuickLoop (クイックループ) のサイズ・プリファレンスでは、QuickLoop (クイックループ) ボタンを小節単位でなくビート単位でループするよう変更することができます。

1. Torq LEのPreferences (プリファレンス) メニューを開いてBehaviors (動作) タブをクリックします。
2. QuickLoop Sizeオプションにある矢印をクリックしドロップダウン・リストから「Beat」を選択します。
3. 「X」をクリックしてPreferences (プリファレンス) ウィンドウを閉じます。

設定が終わるとQuickLoop (クイックループ) ボタンは上記の通り1ビート、2ビート、4ビート、8ビートの長さでループを作成するようになります。

» QuickLoop (クイックループ) の動作

上記に説明した簡単な機能以外にもQuickLoopボタンで操作できる機能があります：

ソングがループしている間にループの長さを様々に変更することができます。1ビートのループに設定されているループを演奏中に「4」のボタンを押すと、自動的にLoop Out Marker (ループ・アウト・マーカ) はソングのループが丁度4ビートになるようループを長くします。

また、QuickLoop (クイックループ) ボタンを繰り返し押すと、現在のループの長さが半分になります。例えばQuickLoop (クイックループ) の2のボタンを押してオーディオが2小節単位でループしている時に、もう一度同じボタンを押すとループの長さは1小節になります。もう一度、同じボタンを押すとループの長さは2ビート (半小節) になります。

Shiftキーを押しながら任意のQuickLoop (クイックループ) ボタンを押すと、逆の動作になります。QuickLoop (クイックループ) ボタンを押す度にループの長さが2倍になります。

Speed Slider (スピード・スライダ)

TorqLEの各デッキには、Speed Adjust (スピード調整) スライダが装備されソングのビートをマッチングさせるために使用します。スライダは、DJのターンテーブルやCDプレイヤーに見られるピッチ調整機能と同様の動作をします。スライダを動かすとその横のADJディスプレイにソングのスピードがどれだけ変更されたか (オリジナルのソングのスピードを0%とした場合のパーセンテージで表示) が表示されます。

スピード・コントロールに関する知識がない場合には、画面上でスライダを下に動かすとソングのスピードが早くなるため、スライダが逆に動いていると感じるかもしれません。しかしながら、これはDJのターンテーブルやCDプレイヤーに見られるピッチコントロールとしては適切な動作です。以下の点を考慮すると理解ができます。

ターンテーブルやCDプレイヤー上のピッチ調整スライダは、ターンテーブルの本体の表面に平面的に装備されています。ピッチ調整スライダを使用する場合、自分の体から向こう側に押すか、自分に向けて引くかのどちらかです。ソングのスピードが速過ぎる場合には、自分の手で「スロー・ダウン」のパフォーマンスをするかのようにスライダを向こう側に押します。ソングのスピードを速くする必要があれば、誰かに早く動いて欲しいことを告げるためのパフォーマンスと同様に、スライダを自分の方に引き寄せます。何日か続けて練習すると逆とも思えるこの動きも自然に感じられます。

注意：X-Session Proハードウェア・コントローラに装備されたピッチ・スライダを操作することによりTorq LEのスピード・スライダを動かすることができます。第13章のX-Session Proについての詳細を参照して下さい。



■ Slider Range (スライダの範囲)

デフォルトでは、Speed Adjuster (スピード調整) の範囲は $\pm 8\%$ です。スライダを両方の一番端まで動かしてもソングのスピードは 8% しか変化しません。スピード調整スライダの左側には、スライダの現在の範囲設定を表示するディスプレイが装備されています。

スピード調整の範囲を変更するには、スライダの横にあるディスプレイをクリックします。クリックする度に、範囲は次の設定値へと上がります。設定値の順序は 8% 、 10% 、 20% 、 50% です。 50% の次にクリックすると 8% に戻ります。範囲を広げる必要があるのは、スピードが極端に異なる2つのソングをマッチさせたり、スペシャル・エフェクトとして極端なスピードの変化を加える時だけです。

経験豊かなDJは、スピード調整スライダを使用して手で2つのソングを単純にマッチさせます。これはソングをマッチさせるのに単純明快な方法です(実際、これが長年に渡り使われている方法です)。1つのソングの速度がもう1つのソングよりも速いかどうかを聞き分けるには相当の訓練を必要とします。DJ演奏の経験がない場合には、Torq LEに搭載された特別機能の幾つかは有効な手段となります。特別機能には、自動ビート・ディテクション、BPMディスプレイ、移動波形ディスプレイ、自動シンク(同期)等が含まれます。

■ BPMディスプレイ

テンポは、ソングのスピードの単位で通常一分間のビート数(BPM)で表します。BPMが大きくなると、ソングのスピードは早くなります。2つのソングのビートを調整してミックスするには、2つのソングは同じテンポで再生されている必要があります。この理由でTorq LEのデッキにはSpeed Slider (スピード・スライダ)が装備されています。DJはイベントで異なるテンポの2つのソングをミックスする時に、次のソングのテンポを現在演奏しているソングのテンポに一致させるためにSpeed Slider (スピード・スライダ)を使用する必要があります。

» 自動BPM検知

デッキに新規トラックをロードする度に、Torq LEはソングを分析しソングのテンポを判断しようとします。一般的なダンス・ミュージック(4つ打ち等の一定のビート

が強調されている)なら、Torq LEは正確にテンポを判断することができます。スキャンが終われば、ソングのテンポはそれぞれのデッキのスピード調整スライダの左側にあるBPMディスプレイに表示されます。

ここに表示されるBPMは「リアルタイムな値」です。スピード調整スライダでソングのスピードを変更するとこの値も変化します。2つのソングを同期させる場合には、それぞれのディスプレイに表示されたBPM値を一致させるだけで2つのソングのテンポをほぼ一致させることができるので大変に役に立ちます。

» Double/Halve (ダブル/ハーフ) ボタン

Torq LEがソングのテンポを不正確に認識した場合、オリジナルのテンポの半分のテンポまたは2倍のテンポになることが多くあります。ドラム&ベースのトラックで170BPM程度のテンポのトラックを使用する場合に頻繁に発生します。Torq LEは、ソングのテンポが実際の半分のテンポである85BPMと勘違いする場合があります。この場合にはダブル/ハーフ・ボタンを使用します。

このボタンを一度押すと上向きの矢印が点灯し、現在のソングのテンポは2倍になります。もう一度このボタンを押すと下向きの矢印が点灯しソングのテンポはオリジナルの半分になります。更にもう一度このボタンを押すと矢印の点灯は消え、検知された最初のテンポに戻ります。



» **Manual Tempo (手動テンポ)**

前述の通り、Torq LEは一般的なダンス・ミュージックのテンポを判断することができますが、テンポが余りにも複雑である場合や同じテンポを十分に反復しない場合、Torq LEは正確にテンポを検知することができません。幸いな事に、Torq LEが様々な方法で適正なテンポを決定できるように手動のコントロールが装備されています。実行するテンポ修正のタイプに基づいて適切な方法を判断します。

» **Tap Tempo (タップテンポ)**

稀なことですが、Torq LEが実際のテンポとは直接関係のない不正確なテンポ（半分の手速または倍速）を検知することがあります。このような場合、タップテンポ機能を使用して演奏中にビートをマーキングすることができます。

1. ソングの演奏中にビートに合わせてBPMディスプレイをビート毎にクリックします。
2. BPMディスプレイにはクリックしたビートのタイミングを反映したBPMが新たに表示されます。
3. タッピングする数が多いほどビートは正確になります。

注意：自動的に決定されたテンポに戻す場合は、Shiftキーを押しながらBPMディスプレイをクリックします。

» **BPM入力**

ソングのテンポが予め分かっている場合は、BPMディスプレイに手動でテンポを入力することができ、Torq LEが検知したテンポを無効にすることができます。

1. Shiftキーを押したままBPMディスプレイをダブルクリックします。
2. コンピュータのキーボードから新たにBPM値を入力しEnterキーを押します。
3. 入力したBPM値がソングのテンポとして設定されます。

注意：自動的に決定されたテンポに戻す場合は、Shiftキーを押しながらBPMディスプレイをクリックします。

Key (キー)

Key Adjust (キー調整) は、テンポを変更せずにキーの高さを調節するために使用します。ミックス中に両方のデッキのソングのメロディをマッチさせる (キー・マッチングと呼ばれています) 場合に便利な機能です。Key Adjust (キー調整) ボタンでソングのキーを変更することも、すぐ下のKey Display (キー・ディスプレイ) を上下にドラッグしてソングのキーを変更することもできます。

■ **Fine Tuning (ファイン・チューニング)**

1. Key Display (キー画面) の数字の上でマウスをクリックしてホールドします。
2. マウスを上下にドラッグさせると1セント単位で調整ができます。

注意：キーのトランスポーズを0に戻すには、コンピュータのキーボードでShiftキーを押したままKey Adjust (キー調整) ボタンまたはKey Display (キー・ディスプレイ) のいずれかをクリックするとキーは0にリセットされますが小数点以下はそのまま残ります。例えば、キーが4.23の場合リセット後の値は0.23になります。

■ **Key/Tempo Lock (キー/テンポ・ロック)**

Torq LEのデッキには、ソングのピッチを変更することなくソングの再生速度を変更する特別機能が装備されています (タイム・コンプレッションまたはタイム・エクспанションと呼ばれます)。つまりビートマッチする時にソングのピッチが変わってしまうことを心配する必要がありません。一方、この機能を無効にしてソングのキーとスピードを本質的にロックする場合、Key/Tempo (キー/テンポ・ロック) ボタンを押すと音楽は普通のヴァイナルと同様の動作をします (ソングのスピードを遅くすると、ピッチがそれに連れて下がります)。

■ MIDIスライダ/ノブ・コントロール

キー調整をMIDIでコントロールする場合は、Torq LEのその他のコントロールとは異なります。Key Adjust（キー調整）をノブやスライダに割り当てることやMIDIキーボードのキーに割り当てることもできますが、Key Adjust（キー調整）のMIDIの動作はコントロール方法に依存します。

1. X-Session Proが適切にインストールされTorq LEで動作することを確認します。第6章でX-Session ProでTorq LEをコントロールするための設定を参照して下さい。
2. Key Display（キー画面）で右クリック（MacintoshではCtrlを押しながらクリック）すると、キー画面が赤くなり割当て待機状態になります。
3. X-Session Proに装備されたMIDIノブやスライダを動かします。これによりキー調整は動かしたノブまたはスライダに割り当てられます。
4. キーは1セミトーンの単位で調整することができます。
5. MIDI CC値64は+0セミトーンです。これは一般的にMIDIコントローラのノブまたはスライダが中央の位置にある場合、キーが0であることを示します。

■ MIDIボタン・コントロール

1. X-Session Proが適切にインストールされTorq LEで動作することを確認します。第6章でX-Session ProでTorq LEをコントロールするための設定を参照して下さい。
2. [+]のKey Adjust（キー調整）ボタンを右クリック（MacintoshではCtrlを押したままクリック）すると赤くなり割当て待機状態になります。
3. MIDIコントローラで任意のボタンを押して[+] Key Adjustボタンを割り当てます。
4. [-]のKey Adjust（キー調整）ボタンを右クリック（MacintoshではCtrlを押したままクリック）すると赤くなり割当て待機状態になります。
5. MIDIコントローラで任意のボタンを押して[-] Key Adjustボタンを割り当てます。
6. ボタンの割当てが終了したら、[+]が割り当てられているボタンを押します。キーは1セミトーン上がります。
7. [+]と[-]の両方のボタンを同時に押します。
8. Key Adjustは0に戻ります。

■ MIDIキーボード・コントロール

1. 追加のMIDIキーボード・コントローラが接続されている場合は、正しくインストールされTorq LEで動作するよう設定されていることを確認します。第6章でX-Session Proまたは追加のMIDIキーボードでTorq LEをコントロールする方法を参照して下さい。
2. Key Display (キー画面) で右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) すると、キー画面が赤くなり割当て待機状態になります。
3. お使いのMIDIキーボードで任意のキーを押します。このキーは自動的にTorq LEのKey Adjust (キー調整) の「ルート・キー」として割当てられます。
4. ルート・キーより1セミトーン高いMIDIキーを押すと、デッキのキーは+1セミトーン分高くなります。
5. ルート・キーより2セミトーン低いMIDIキーを押すと、デッキのキーは2セミトーン分低くなります。
6. キーのトランスポーズの範囲は上下に12セミトーンずつです。単一のMIDIコントローラ・キーボードを使用して両方のデッキのキー調整をコントロールするためには、4オクターブ以上の鍵盤を装備するキーボードが必要です。

注意: Torq LEでは、ルート・キーが少なくとも2オクターブ離れている限り同じコントローラで同じMIDIチャンネルからの複数のノートを使用することができます。

Sync (シンク) ボタン

Sync (シンク) ボタンは片方のデッキのビートとBPMをもう一方のデッキまたはマスター・テンポに自動シンク (同期) させる方法を提供します。片方のデッキでシンクを有効にすると (シンクのアイコンがオンになります)、デッキのテンポがもう一方のデッキまたはマスター・テンポに一致するよう変更されます。更に、再生ボタンを押すとTorq LEはそのソングをもう一方のデッキの位相またはマスター・テンポに合わせて整列させます。本質的に同期化されているデッキは、もう一方のデッキに対して「スレーブ」となります (この場合、もう一方のデッキは「マスター」です)。

もう一度Sync (シンク) ボタンをクリックする時点までシンク (同期) は有効なままです。シンク (同期) が有効な時、デッキはもう一方のデッキまたはマスター・テンポのテンポが変化するとそれにより影響を受けます。「マスター」のデッキのテンポを遅くすると「スレーブ」のデッキも同様に遅くなります。「スレーブ」のデッキをスクラッチまたはテンポ調整をしようとしても、Torq LEは自動的に「マスター」のデッキの位相に一致する状態へと即座に戻します。

この時点でデッキのSync (シンク) ボタンをオフにすると、テンポ設定はそのまま維持されもう一方のデッキに一致するようソングは再生を続けます。但し、どちらかのデッキを動かしてもTorq LEはソングの位相を即座に戻すことはせず、またテンポを変更した場合にTorq LEではテンポの一致が維持されません。

Nudge (ナッジ) ボタン

Torq LEでSync (シンク) ボタンを使用したトラックの整列を維持する能力を利用しない場合、Nudge (ナッジ) ボタンを使用して手動で同様の操作を行うことができます。2つのソングのビートのタイミングが前後にずれている場合、Nudge (ナッジ) ボタンを使用してソングの再生スピードを微調整してソングが整列できるようにします。ソングがビートより早いタイミングである場合、左のNudge (ナッジ) ボタンを押してソングを少し遅くします。2つのソングの波長が互いに関連して動くのがわかります。ソングが適正に整列すれば、Nudge (ナッジ) ボタンから手を離すとオリジナルの再生スピードが回復します。

注意: Nudge (ナッジ) ボタンの動作は、Preferenceメニューで逆にして右のNudge (ナッジ) ボタンを押すとソングのスピードを速くすることができます。

Offset (オフセット) ボタン

2つのソングを同時にミックスする場合、ビートは整列していても2つのソングの位相が一致していない場合があります。片方のソングが1つのビートでオフセットされるため、そのトラックのスネアドラムが整列からずれる時に位相の不一致が顕著に現れます。Offset (オフセット) ボタンを使用してこのずれを修正します。Offset (オフセット) ボタンを押すと、1ビート単位で現在のソングの位置 (Now Line) を前後にジャンプさせます。

注意: Preference (プリファレンス) メニューでSync (シンク) モードが「Bar (バー)」に設定されている場合、デッキのSync (シンク) ボタンをオンにしても効果がありません。Sync (シンク) ボタンをオンにしてビート単位でソングをオフセットする場合、後述の「Synchronization (同期)」のセクションで説明する通りPhase Grid (位相グリッド) をオフセットする必要があります。

M-AUDIO

WAVEFORM DISPLAY (波形ディスプレイ)

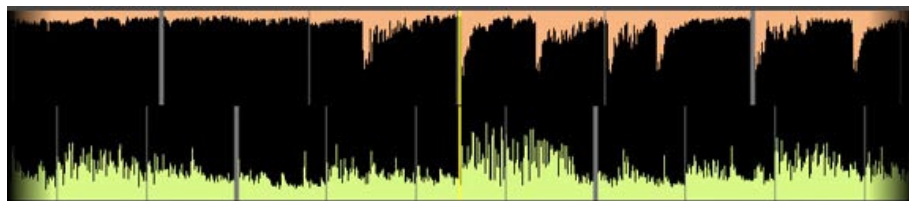
Torq LEのユーザー・インターフェイスで重要な機能の1つが移動波形ディスプレイで、Mixer (ミキサー) とEffect Rack (エフェクト・ラック) の上にある大きいウィンドウです。各デッキにある小さいオーバービュー波形ディスプレイとは異なり、移動波形ディスプレイは現在のソングの現在演奏している位置から数秒前後のみを表示します。デッキA (左) のソングは、移動波形ディスプレイの上部に表示します。デッキB (右) は、ディスプレイの下部に表示します。デッキの演奏が進むにつれてオーバービュー波形ディスプレイでは黄色の現在のラインが左から右へ移動しますが、移動波形ディスプレイではNow Lineの位置が固定されて、その背後を波形が移動します。

ディスプレイに表示される情報

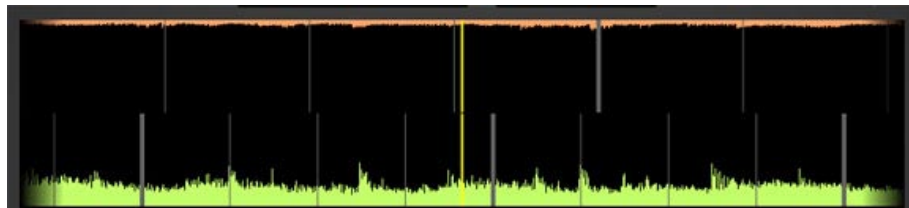
見た目にもクールな移動波形ディスプレイは、ルックス以外にも目的があります。移動波形ディスプレイでは、2つのデッキの配列と同期を以下の点で視覚化するものです。

Waveform (波形)

オーディオの波形自体を見るとソングのビートがどこにあるかがわかります。ビートは尖ったヒット (一時的ピーク) で波形の中では長く細いスパイク (突然急上昇する部分) に現れます。下図の移動波形では、両方のソングのヘビーなベース・ドラムのビートの位置がわかります。



ドラムが停止すると長いスパイクは表示されなくなります。これでソングのブレイクダウンまたはスローな部分に近付いていることがわかります。同様の方法でドラムがいつ始まるかがわかります。



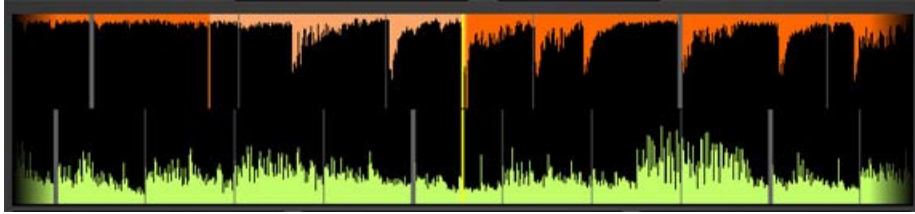
Chapter

4

WAVEFORM DISPLAY (波形ディスプレイ)	20
ディスプレイに表示される情報	20
Waveform (波形)	20
Loop Points (ループ・ポイント)	21
Cue Points (キュー・ポイント)	21
Phase Grid (位相グリッド)	21
ソング再生を操作	21
Vinyl (ヴァイナル) モード	21
Hybrid (ハイブリッド) モード	22
CDJモード	22

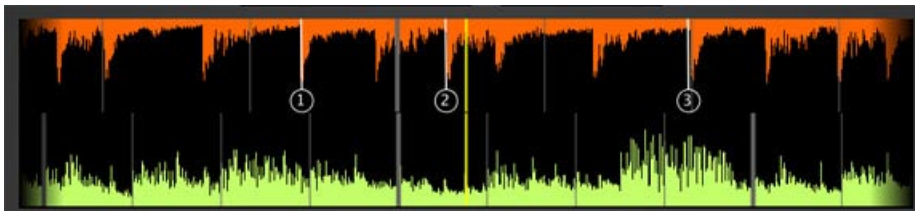
Loop Points (ループ・ポイント)

ソングのLoop Points (ループポイント) は、波形の中に表示されます (Loop In/OutボタンやQuickCueボタンを使用して設定します)。ソングの中でループされている部分は、波形のその他の部分と見分けられるように薄い色で表示されます。



Cue Points (キュー・ポイント)

Cue (キュー) ボタンまたはQuickCue (クイック・キュー) ボタンを使用してCue Marker (キュー・マーカ) をソング内に配置してあればこの波形の中に表示されます。QuickCue (クイック・キュー) マーカーは、マーカーの端に番号 (割当てられたQuickCue (クイック・キュー) ボタンの番号に対応) が表示され標準のCue (キュー) ポイントはオレンジ色のラインで表示されます)。



Phase Grid (位相グリッド)

Torq LEでは、メインの移動波形ディスプレイの上にPhase Grid (位相グリッド) を重ねソングのビートの位置を表示します。Phase Grid (位相グリッド) の太線は、ソングのダウンビートの位置に表示されます。ソングがデッキにロードされるとTorq LEは解析の一部として適正な位置にPhase Grid (位相グリッド) を表示しようと試みます。Torq LEはPhase Grid (位相グリッド) の位置を使用して適切にソングをシンク (同期) させます。

ソング再生を操作

Waveform Display (波形ディスプレイ) では、様々な方法でマウスを使用してソングの再生を操作することができます。コントロール方法は、選択したデッキのコントロール・タイプ (Vinyl/CDJ/Hybrid) により異なります。

Vinyl (ヴァイナル) モード

このモードを選択して波形の上でマウスを使用するとターンテーブルで手演奏するのと同様の方法で動作します。

1. 波形の上でマウスをクリックしてホールドします。ヴァイナルの上に手を置いて停止させるのと同様に再生が停止します。
2. マウスボタンをホールドしたままマウスを左右にドラッグします。これによりソングをスクラブまたはスクラッチできます。
3. マウスボタンから指を離すとデッキは現在の位置からソングの再生を開始します。

Hybrid (ハイブリッド) モード

Hybrid (ハイブリッド) モードを有効にすると波形はCDJモードと全く同じ反応をしますが、デッキのコントロール (再生/一時停止ボタン、キュー等) はヴァイナル・モードと同様の動作をします。

1. 波形をクリックしてホールドします。
2. マウスボタンをホールドしながらマウスを左にドラッグします。再生テンポは一時的に早くなり波形は少し早く左に移動します。
3. 次にマウスをホールドして右にドラッグします。再生はそのまま進行しますが、テンポは僅かに遅くなり波形は右から左に移動しますが速度が遅くなります。
4. ドラッグするのをやめるとマウスボタンをホールドしたままでも再生はオリジナルのテンポに戻ります。

CDJモード

このモードを選択するとマウスで波形を「スクラッチ」することができませんが、その代わりにマウスを動かすと僅かにソングを前後にナッジ (微調整) します。

1. 波形をクリックしてホールドします。ソングは再生を続けます。
2. マウスボタンをホールドしながらマウスを左にドラッグします。再生テンポは一時的に早くなり波形は少し早く左に移動します。
3. 次にマウスをホールドして右にドラッグします。再生はそのまま進行しますが、テンポは僅かに遅くなり波形は右から左に移動しますが速度が遅くなります。
4. ドラッグするのをやめるとマウスボタンをホールドしたままでも再生はオリジナルのテンポに戻ります。

SYNCHRONIZATION (同期)

最 近のクラブやイベントでは、通常DJはビート・マッチングと呼ばれるテクニックを使用してソングをミックスします。この目的は、2つのソングのビートを互いに完全にマッチさせソング間でフェードしながら次のソングに移行させることです。適切に実行されると、演奏中のソングのビートは次のソングのビートに完全に調和して1つのソングのように聞こえるため音楽を中断する必要がありません。DJは一度のセッションで何時間も続けてこの作業を行い、自分のコレクションにあるそれぞれのソングから巨大なノンストップ・ミックスを作成することになります。このテクニックを適切に実行するのに必要なのは、テンポのマッチングとフェーズのマッチングという2つの課題をマスターすることです。

Automatic Tempo and Phase Detection (自動テンポと位相の検知)

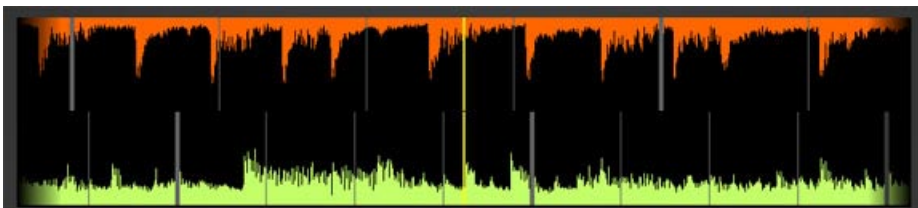
前述の通り、テンポはソングのスピードの単位で通常一分間のビート数 (BPM) で表します。ソングをデッキにロードするとTorq LEは自動的にソングのテンポを検知するため、テンポを一致させるにはBPMディスプレイに表示される値が両方のデッキで同じになるまでSpeed (スピード) スライダを動かすだけです。外部のヴァイナルまたはCDコントローラを使用する場合、ターンテーブルまたはCDプレイヤーのピッチ調整機能を使用してソングのスピードを調整することができます。

2つのソングのテンポを一致させたら2つのソングを正確に適切な瞬間または互いに位相が一致するように再生を開始する必要があります。位相はサイクル内での開始位置を基準にします。音楽用語を使用すれば、ソングの中で例えば1小節のダウンビートのようなビートの位置がどこにあるかが基準になります。適切に同調すると両方のソングのビートは1つの大きなビートに調和します。ソングがずれていたり位相が合っていないければ、2つのソングのビートは異なって演奏されるため酷いサウンドに聞こえます (これはDJ用語では「トレイン・レック (列車の衝突事故)」と呼ばれ常に避けるべき問題です)。

Torq LEのScrolling Waveform (移動波形) は、2つのソングの位相を同調させるのに役立ちます。波形の中の過渡電流を視覚的に整列させるだけでなくPhase Grid (位相グリッド) を使用して自動シンクさせることもできます。

Phase Grid Manipulations (位相グリッドの操作)

Torq LEでは、Phase Grid (位相グリッド) が移動波形ディスプレイの上に配置してあるため、ソングのブレイクダウンやリズムの無いイントロ部分でもビートの位置を簡単に確認できます。Torq LEの自動シンクを動作させるためには、Phase Grid (位相グリッド) をソングに合わせて適切に整列する必要があります。2つのソングのPhase Grid (位相グリッド) が適切に整列していれば、Torq LEで2つのソングをシンク (同期) させることができ難破したような音には聞こえません。Torq LEは、ソングの解析中にPhase Grid (位相グリッド) を適切な位置に配置しようとします。Torq LEがPhase Grid (位相グリッド) を不適切に配置した場合、適切なビートに合わせて再配置する必要があります。



Chapter

5

SYNCHRONIZATION (同期) . . . 23

Automatic Tempo and Phase Detection
(自動テンポと位相の検知) . . . 23

Phase Grid Manipulations
(位相グリッドの操作) 23

マウスで調整する 24

Nudge
(ナッジ) ボタンで調整する . . . 24

Offset (オフセット)
ボタンで調整する 24

Sync (シンク) ボタン 25

Locked (固定) シンク 25

Momentary (一時) シンク . . . 25

上図のような配置ミスが発生すると波形の中でビート（過渡電流）の頭にグリッドが並んでいないことがわかります。例えばPhase Grid（位相グリッド）が早過ぎると波形の中でグリッドの線と過渡電流の間に隙間ができます。

Phase Grid（位相グリッド）の配置ミスを修正する方法は数多くあります。どの方法を選択するかは、マウスやキーボードを使用する方が安心か、また外部のMIDIコントローラを使用する方が良いか等の状況にもよります。どの方法を使用しても同じ結果が得られますので随意に選択して下さい。

マウスで調整する

1. Shiftキーを押しながらマウスでクリックして左右にドラッグします。
2. Phase Grid（位相グリッド）はマウスの動きに従い左右に移動します。
3. 太線の「ダウンビート」のマーカを整列させたらマウスボタンから指を離します。



注意：Shiftキーを押し続ける代わりにCap Lock（大文字ロック）を有効にすることもできます。操作が終了すればCap Lockを無効にして波形を適切にコントロールができるようにします。

Nudge（ナッジ）ボタンで調整する



1. Shiftキーを押しながらNudgeボタンのどちらかをクリックします。
2. Phase Grid（位相グリッド）はクリックしたNudge（ナッジ）ボタンの方向に合わせて移動します。
3. ボタンを使用して太線のダウンビートのマーカをソングのダウンビートに合うよう調整します。

Offset（オフセット）ボタンで調整する



1. Shiftキーを押しながらOffset（オフセット）ボタンのどちらかをクリックします。
2. Phase Grid（位相グリッド）に少しずつ変化を加える代わりに、この操作ではグリッドを1ビート分左右どちらかに移動させます。ビートは合っていてもダウンビートが不適切な位置にある場合等には、この方法がPhase Grid（位相グリッド）を最も早く整列できる方法です。

Sync (シンク) ボタン



Sync (シンク) ボタンは、片方のデッキのBPMをもう一方のデッキまたはマスター・テンポに自動シンク (同期) させる方法を提供します。片方のデッキでシンクを有効にすると (シンクのアイコンがオンになります)、デッキのテンポがもう一方のデッキに一致するよう変更されます。更に、再生ボタンを押すとTorq LEはそのソングをもう一方のデッキの位相に合わせて整列させます。本質的に同期化されているデッキは、もう一方のデッキに対して「スレーブ」となります (この場合、もう一方のデッキは「マスター」です)。

Locked (固定) シンク

シンク (同期) は、もう一度Sync (シンク) ボタンをクリックする時点まで有効です。シンク (同期) が有効な時、両方のデッキは事実上互いにロックされます。もう一方のデッキまたはマスター・テンポのテンポが変化するとそれにより影響を受けます。「マスター」のデッキのテンポを遅くすると「スレーブ」のデッキも同様に遅くなります。「スレーブ」のデッキをスクラッチまたはテンポ調整をしようとしてもTorq LEは自動的に「マスター」のデッキの位相に一致する状態へと即座に戻します。

Momentary (一時) シンク

片方のデッキのSync (シンク) をオフにすると、テンポの設定はそのまま維持されソングはもう一方のデッキに同調して再生を続けますが、両方のデッキはどちらかに変更を加えてシンクを続けようとしません。片方のデッキを動かしてもTorq LEはもう一方のソングに調和するように即座に戻そうとせず、テンポを変更しても両方のテンポを合わせようとはしません。ここで、一時的にシンクさせる必要がありその後は自由に動作させる場合、Sync (シンク) ボタンを一度クリックしてシンクを有効にし再びSync (シンク) ボタンをクリックしてシンクを無効にします。2つのデッキのテンポは同調し音楽を自在に操作できるようになります。

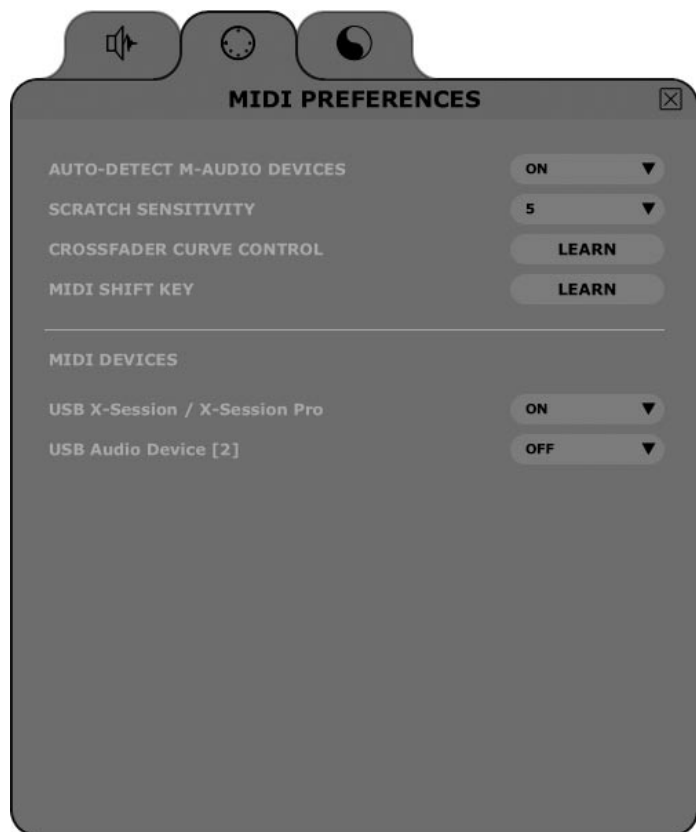
M-AUDIO

外部コントロール

Torq LEの素晴らしい機能の1つには、外部機器を使用してソングのファイルの再生をコントロールすることができます。特にMIDIハードウェア（X-Session Pro DJコントローラ等）を使用してTorq LEの様々な機能をコントロールすることができます。

MIDIプリファレンス

プリファレンス・メニューの2つ目のタブはMIDIオプションです。このタブの一番下にコンピュータで有効なMIDI入力機器全てのリストが表示されます。各機器は「On/Off」のオプションにより有効/無効を切り換えることができます。Torq LEをコントロールするために使用するMIDI機器を「On」に設定します。そうでない場合は「Off」を選択するとTorq LEはその機器を無視します（別のソフトウェアをコントロールするために使用することもできます）。



MIDI入力を有効にした機器でMIDIラーン機能を使用してTorq LEをコントロールすることができます。以下の方法に従います。

Chapter

6

外部コントロール	26
MIDIプリファレンス	26
MIDIラーン	27
MIDI割当てを作成する	27
MIDI割当てを解除する	27
MIDI割当てを変更する	27
キーボード・ラーン	27
ボタンをノブやスライダに割当て	27
ノブやスライダをボタンに割当て	27

MIDIラーン

ミュージシャンは、それぞれ少しずつ異なる角度から自分の作品にアプローチしますが、DJ演奏も例外ではありません。この理由でTorq LEは初めて起動した時基本的には空白の状態です。画面上のボタン、ノブ、スライダ等に覚えておくべきプリセット・コントロールの割当てはありません。その代わりに、自分自身が最も使い易いようにMIDIメッセージをコントローラに割当てることができます。

MIDI割当てを作成する

Torq LEでは、簡単なMIDIラーン機能を使用してMIDIコントローラに簡単にコントロールを割当てることができます。

1. ボタン、ノブ、スライダ等、MIDIでコントロールするコントローラを右クリック（MacではCTRLを押しながらクリック）します。コントローラは赤く点灯しTorq LEが割当て待機状態にあることを示します。
2. MIDIコントローラで割当てをするコントローラを動かします。つまり、ノブやスライダを動かすと割当てられたボタンやキーを操作することになります。
3. Torq LEは、入力MIDIメッセージを傍受して即座にコントローラに割当てます。赤色は消灯しMIDIコントローラが有効になります。

MIDI割当てを解除する

MIDIラーン機能を使用してMIDIコントローラを割当てた後で割当てを解除するには、Torq LEで解除するコントローラを右クリック（MacではCtrlを押しながらクリック）してコンピュータのキーボードのDeleteキーを押します。コントローラの割当ては解除されます。

MIDI割当てを変更する

例えばMIDIノブにミキサーのLow EQを割当ててあり、その割当てをMid EQに変更するにはMid EQノブを右クリック（MacではCtrlを押しながらクリック）してMIDIノブを動かします。これによりLow EQノブの割当てが解除されMIDIコントローラにはMid EQノブが割当てられます。以前の割当てを気にせず継続的にコントローラを割当てることができるので、Torq LEでは小規模なコントローラを使用することができます。

キーボード・ラーン

コンピュータのキーボードを使用してTorq LEインターフェイスの要素を上記のMIDIラーン機能と同じ方法を使用してコントロールすることができます。画面上のコントロールを右クリック（MacではCtrlを押しながらクリック）してキーボードの任意のキーを押します。キーには選択したコントロールを割当てることができます。キーボードのMIDI割当ては、前述の変更と解除の方法と同様です。

ボタンをノブやスライダに割当てる

MIDIボタン/キーまたはコンピュータのキーボードのキーにTorqインターフェイスのノブやスライダを割当てることができます。この場合、MIDIボタン/キーを押すとノブまたはスライダの値は割当て可能な最小値と最大値を交互に切り換えることができます。例えば、コンピュータのキーボードの「X」キーをLow EQノブへ割当てます。マウスを使ってEQを+6に上げてからコンピュータのキーボードの「X」ボタンを押します。EQは0にジャンプします。「X」を押すとEQは+6に戻ります。

ノブやスライダをボタンに割当てる

逆に、MIDIノブ/スライダをTorqのボタンに割当てることができます。この場合、ノブ/スライダが中央値を超える（64より大きいMIDI値出力）とボタンが有効になります。ノブ/スライダが中央値より低くなるとボタンはオフに戻ります。

M-AUDIO

ブラウザ/データベース

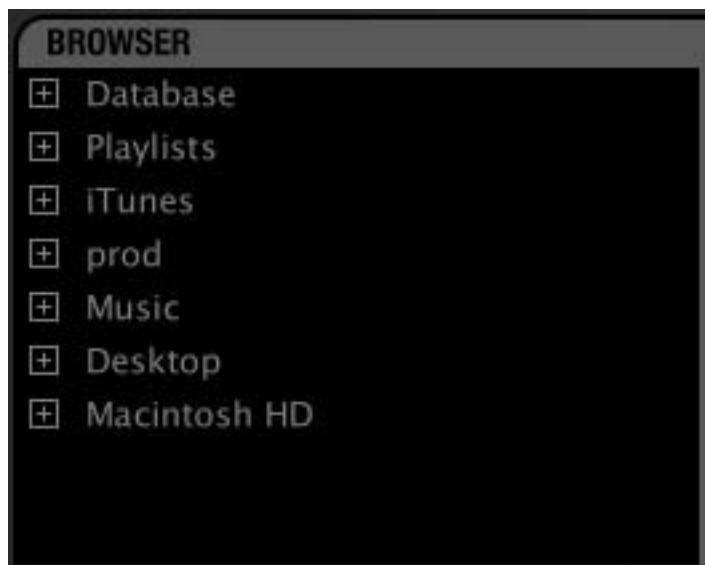
DJの最も重要な財産は、所有する機器ではなく音楽のコレクションです。コレクションに最高のトラックを豊富に揃えておかなければ、DJはダンスフロアを支配する能力を備えていると言えません。DJ演奏を少しでも経験したことがあれば、大量のソングのコレクションを収集しているはずです。ソングをいかに素早く見つけるかがTorq LEのBrowser（ブラウザ）とDatabase（データベース）の仕事です。

ブラウザは、コンピュータのオペレーティング・システムに採用されているナビゲーションと同様の方法で動作します。ブラウザでは、ハードディスク（内部/外部）や接続したMP3プレイヤー（iPod等）、オーディオCD等の全てのコンテンツを閲覧することができます。また、Torq LEのデータベースに新たな音楽のフォルダを追加しキーワードや検索オプションでソングを検索することもできCDケースの中やヴァイナルの山から探し出すよりもずっと簡単にソングを見つけることができます。Torq LEでは、プレイリストの構築をサポートしパフォーマンスに使用する一連のソングを事前に選択することができます。また、連続して演奏したソングを全て記録して後に見直す（Session Playlist）ことができます。

このセクションでは、Torq LEのブラウザを使用してハードディスクをナビゲートする方法や音楽ファイルを含むフォルダをデータベースに追加する方法を説明します。また、特定のソングを検索する方法やカテゴリ別にソングを管理して簡単に見つける方法やプレイリストの管理方法等も説明します。

Browser（ブラウザ）ウィンドウ

Browser（ブラウザ）のウィンドウは、Torq LEインターフェイスの左下にあります。簡単なファイル構成でハードディスク、フォルダ、プレイリスト等をナビゲートできます。



ブラウザに含まれる標準の見出しには、Database（データベース）とPlaylists（プレイリスト）の2種類があり、ブラウザ・ウィンドウの一番上に表示されます。ブラウザには、コンピュータに接続された各ハードディスクのリストが含まれます。これらのハードディスクには、名前（例、C、Macintosh HD等）が付いています。最後に、接続されたメディア・プレイヤーや挿入されたCD等も表示されます。

Chapter

7

ブラウザ/データベース	28
Browser（ブラウザ）ウィンドウ . . .	28
Database（データベース）	29
File List（ファイル・リスト）	31
フィールドを編集する	31
アーティスト/ソング・ ファイル名交換	31
ソングをデッキにロードする . . .	32
リストを分類する	32
リストを検索する	33
Playlists（プレイリスト）	34
Session Playlist (Sessionプレイリスト)	37
iTunes	38
iPods	39
Drives（ドライブ）	39
Audio CD（オーディオCD） . . .	39

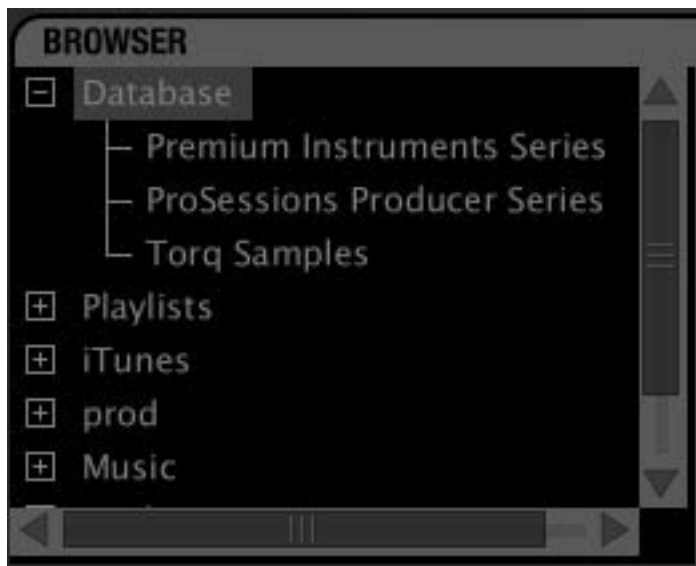
Browser (ブラウザ) をナビゲーションするには、以下の簡単な手順に従います：

1. フォルダに含まれるソングを閲覧するには、フォルダの名前をクリックします。フォルダに音楽ファイルが含まれていれば、ファイルはブラウザ・ウィンドウの右側にあるFile List (ファイル・リスト) に表示されます。Torq LEの選択されたフォルダに音楽ファイルを見つけれない場合はリストは空白のままです。
2. サブ・フォルダを見るには、フォルダの横にある「+」をクリックします。メインのフォルダの下に有効なサブ・フォルダが全て表示されます。サブ・フォルダのリストを閉じるには、メインのフォルダの横の「-」をクリックします。

Database (データベース)

Database (データベース) は、ブラウザ・ウィンドウの一番上に表示されます。データベースは、コンピュータ (別のハードディスクも含む) にあるファイルのフォルダのリストです。フォルダがデータベースに追加されると、その中に含まれるソングはデータベース内のアイテムをクリックする度にファイル・リストに表示されます。データベースに複数のフォルダが割当てられると全てのフォルダ内の全てのファイルがファイル・リストに同時に表示されます。データベースを効率的に使用するためには、スピンする音楽が含まれるフォルダだけを割当てるのが大事です。

■ フォルダをDatabase (データベース) に追加する



音楽フォルダをDatabase (データベース) に追加する：

1. Browser (ブラウザ) を使用してフォルダを検索します。
2. 追加するフォルダを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) します。
3. ポップアップメニューから「Add to database」 (データベースに追加) を選択します。
4. フォルダはデータベースに割当てられます (Databaseの左にある「+」をクリックすると追加したフォルダがその下に表示されます)。
5. Databaseをクリックすると追加したフォルダの内容がファイル・リストに表示されます。

■ 複数のフォルダを追加する

多くの場合、1つのフォルダにはDatabaseに追加する多くのフォルダが含まれます。Apple社のiTunesのようなプログラムで音楽が自動的に分類されるなどが良い例です。一般的にコレクションには、各アーティストのフォルダが含まれ、それぞれのフォルダにはそのアーティストのアルバム毎に個別のフォルダが含まれます。つまり、Databaseに特定のアーティストの音楽全てを追加するには、実際には個々のアルバムのフォルダを追加する必要があります。

Torq LEには、サブ・フォルダを含むフォルダをDatabaseに追加するためのオプションが含まれ複数のフォルダを簡単に追加できます：

1. Browserを使用して追加するサブ・フォルダを含むフォルダを検索します。
2. フォルダを右クリック（MacintoshではCtrlを押しながらクリックして「Add folder to Database recursively」（繰り返し表示）を選択します。Torq LEは、自動的にDatabaseに全てのサブ・フォルダも含めてフォルダを追加します。

■ オペレーティング・システムからフォルダを追加する

オペレーティング・システムからフォルダをTorq LEのBrowserにドラッグしてDatabaseにフォルダを追加することもできます。この場合、WindowsではExplorerを、MacintoshではFinderを使用します

1. オペレーティング・システム（ExplorerまたはFinder）のツールを使用して追加するフォルダを検索します。
2. オペレーティング・システムからフォルダをTorq LEのBrowserにドラッグします。
3. マウスから指を離すとフォルダはDatabaseに追加されます。

注意：フォルダをDatabaseにドラッグする時にAltキーを押したままにするとサブ・フォルダも含めて追加することができます。

■ 特定のデータベース・フォルダを検索する

DatabaseのヘッディングをクリックするとBrowser（ブラウザ）ウィンドウの右にあるFile List（ファイル・リスト）内のDatabase（データベース）に含まれる全てのソングが表示されます。Database（データベース）内で特定のフォルダを検索する方法は以下の通りです：

1. Databaseのヘッディングの前の（+）をクリックします。Databaseに含まれる全てのフォルダがリストに表示されます。
2. 任意のフォルダをクリックします。File List（ファイル・リスト）が更新され特定のフォルダに含まれるソングだけを表示します。

■ データベースからフォルダを削除する

Databaseからフォルダを削除する方法は2種類あります。Databaseに現在リストされているフォルダの中からフォルダを見つけ、フォルダを削除するか、コンピュータのハードディスクにあるオリジナルのフォルダを見つけて削除することができます。

Database（データベース）から直接フォルダを削除する：

1. Databaseの左の「+」をクリックするとDatabase内の全てのフォルダのリストが表示されます。
2. 削除するフォルダを見つけたら右クリック（MacintoshではCtrlを押しながらクリック）します。
3. ポップアップ・メニューから「Remove from database」（データベースから削除）を選択します。フォルダはDatabaseから削除されます。

ブラウザからフォルダを削除する：

1. Browserを使用してコンピュータの中にあるオリジナルのフォルダを検索します。
2. フォルダを右クリック（MacintoshではCtrlを押しながらクリック）するとポップアップ・メニューが表示されます。
3. このフォルダだけを削除する場合は「Remove from Database」（データベースから削除）をクリックします。フォルダにDatabaseの一部であるサブ・フォルダが含まれる場合、サブ・フォルダはDatabaseに残ります。
4. サブ・フォルダも含めてこのフォルダを削除する場合は、「Remove from Database Recursively」をクリックします。

File List (ファイル・リスト)

ブラウザ・ウインドウの右のウインドウは、File List (ファイル・リスト) です。Database (データベース) やそれぞれのフォルダ等、音楽ファイルを含むフォルダを選択するとソングがこのウインドウにリストされます。File List (ファイル・リスト) は、ソングの名前だけでなくソングのID3タグに含まれるアーティスト名、アルバム名、トラック番号、ジャンルやその他のフィールドも表示します。これらの付加的なカテゴリにより効率よくソングを検索することができます。

注意: ID3タグは、上記にリストされた情報の保存をサポートしますが音楽ファイルのID3のフィールドの幾つかは通常ブランクのままです。音楽ファイルが全てのカテゴリの情報を含まなくても不足した情報を自分で記入しておくことでファイルの検索に役立てることができます。

フィールドを編集する

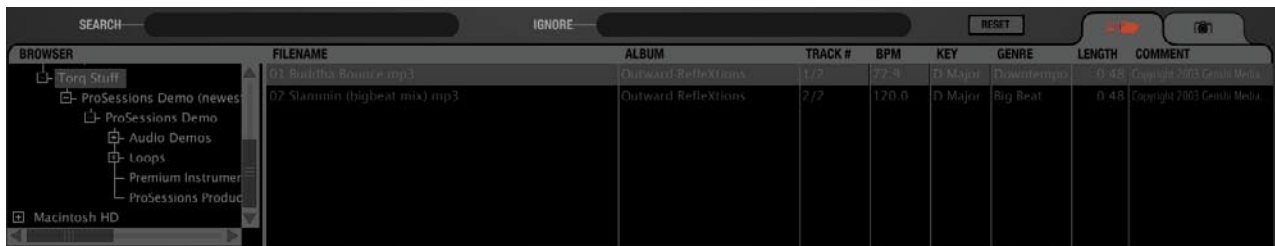
Torq LEは、ファイルのID3タグから関連するソング情報を抽出し上記の通りにFile List (ファイルリスト) のフィールドを埋めます。File List (ファイルリスト) に表示される情報は、任意のフィールドをクリックして新規データを入力すると自在に編集できます。

編集を加えてもTorq LEではソングのID3タグを更新しません。その代わりに、編集したフィールドはソング名と同じ名前が付いた特別なファイルに保存されファイルの拡張子は「.tqd」になります。TQDファイルに編集を保存すると、Torq LEは変更をより速く保存することができます (ID3タグの変更はオーディオ・ファイル全体を上書きすることが必要なため、ライブで使用中にはシステム・パフォーマンスに影響を及ぼします)。更に、オーディオ・ファイルは上書き中に破損する恐れがあります。つまりTorq LEは、データをTQDファイルに保存することで大切な音楽ファイルに支障をきたすことはありません。

アーティスト/ソング・ファイル名交換

ソングに含まれるID3タグの情報 (上記) は、不完全なソングの情報が含まれている場合もあります。最悪の場合にはID3タグにアーティスト名もソング名も含まれていないこともあります。この場合、Torq LEには空白のオーディオ・ファイルがリストされます (Fileリストでは空白に見えますが、ソングをロードしたり演奏することはできません)。この状況では使用しているファイルが何かわからなくなります。そこで、Torq LEではSong (ソング) とArtist (アーティスト) のカテゴリを1つのファイル名のカテゴリに変更することができます。

1. ArtistまたはSongのカテゴリ名を右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) します。
2. ArtistまたはSongのカテゴリは「Filename」の1つのカテゴリに融合しソングのID3タグに含まれるアーティストやソング情報でなくファイル名を表示するようになります。



3. 元通りのArtistやSongのカテゴリに戻すには、「Filename」を右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) します。

ソングをデッキにロードする

File List (ファイルリスト) からソングをTorq LEのデッキにロードする方法は2種類あります。

■ クリック&ドラッグ

1. File List (ファイルリスト) から任意のソングをクリックしてホールドします。ソングはハイライトされます。
2. マウスボタンでソングをホールドしたままTorq LEのいずれかのデッキへドラッグします。
3. デッキの上にソングを移動させたらマウスから指を離すとトラックはデッキにロードされます。

注意: 移動波形の上にソングをドラッグすることもできます。上部の波形にトラックをドラッグすると左側のデッキAにロードされます。下部の波形にトラックをドラッグすると右側のデッキBにロードされます。

■ ファンクション・キー

1. File List (ファイルリスト) から任意のソングをクリックするとソングはハイライトされます。
2. F1を押すとソングはデッキAにロードされます。F2を押すとソングはデッキBにロードされます。

注意: この操作はFull Browser View (フル・ブラウザ・ビュー) (F6) で使用している場合には、大変に役に立つ手段です。またMacのノートパソコン型のコンピュータを使用する場合、この機能を有効にするにはファンクション・キーを押しながらFnキーをホールドする必要があります。

リストを分類する

File Listのウインドウの最上部には、8種類のカテゴリ名が表示されています。Artist (アーティスト)、Song (ソング)、Album (アルバム)、Track # (トラック番号)、BPM (ビート/分)、Genre (ジャンル)、Rating (評価)、Comment (コメント) です。これらのカテゴリは、音楽ファイルのID3タグに含まれる情報です。ID3タブは音楽ファイル内に付随的な情報を保存する標準的なフォーマットです。

File List (ファイルリスト) の内容を分類するには、ウインドウの上部にあるカテゴリ名をクリックします。例えば、Album (アルバム) のカテゴリをクリックするとFile List (ファイルリスト) はアルファベット順 (AからZの順) にアルバム名を並べ替えます。BPMの列をクリックすると全てのソングはBPM順に並びます。これはBPMが同じくらいのソングを検索する場合に大変に役に立つ方法です。

Reset (リセット) ボタンをクリックするとデフォルトの順序に並び替えます。

リストを検索する

最も簡単な検索方法は、Database/Browserのすぐ上にあるSearch（検索）のフィールドにキーワード（複数可）を入力します：

1. Browserウィンドウの中の「Database」をクリックして選択します。
2. Searchフィールド内をクリックし検索のためのキーワードを入力します。キーワードにはアーティスト名、ソングのタイトル等が適切です。
3. 入力を始めるとTorq LEは入力した文字に従いDatabase内を検索します。キーボードのEnterキーを押す必要はありません。
4. 入力を止めるとフィールドのどれかにキーワードが含まれるファイル全てがリストされていることがわかります。

例えば、「love」を検索フィールドに入力してTorq LEには以下の結果が表示された場合：

Artist*	Song	Album
Deee-Lite	Power of Love	World Clique
Jennifer Love Hewitt	Can't Stand in the Way of Love	Let's Go Bang
Love and Rockets	Angels and Devils	Express
Madonna	I'd Rather Be Your Lover	Bedtime Stories
Sade	Flow	Lover's Rock

■ 検索カテゴリ

上記の例では、検索が上手く成功し「love」という単語をいずれかのカテゴリに含むソングが検索されました。しかしながら、これが自分の探しているものとは今ひとつ違う場合があります。実際は「love」がソングのタイトルに含まれるファイルを探していたとします。その場合、検索の範囲をSongのカテゴリだけに限定する必要があります。

特定のカテゴリに検索を限定する：

1. Shiftキーを押しながらカテゴリの名前をクリックします。カテゴリ名は赤に変わります。
2. Torq LEは検索結果を絞り込み選択したフィールド内にキーワードが含まれるソングのみを表示します。
3. Shiftキーを押しながら次のカテゴリをクリックすることもできます（例：SongとAlbumの両方で同時に検索する場合等）。
4. Shiftキーを押しながら選択したカテゴリをクリックすると選択を解除することができます。

前述の例を使用して検索をSongのカテゴリに限定すると以下の結果が得られます：

Artist*	Song	Album
Deee-Lite	Power of Love	World Clique
Jennifer Love Hewitt	Can't Stand in the Way of Love	Let's Go Bang
Madonna	I'd Rather Be Your Lover	Bedtime Stories

以上の表にはソングのタイトルだけに「love」が含まれるものが表示されています。

■ Ignore (無視) フィールド

Torq LEでは、Ignore (無視) フィールドを使用して検索を限定する方法もあります。ここでは、Torq LEの検索結果から除くキーワードを入力します。Ignoreのキーワードは現在選択されているカテゴリ (前述) にのみ適用されます。

検索結果からキーワードを除く：

1. Ignoreフィールド内をクリックします。
2. 検索から取り除くキーワードを入力します。
3. Torq LEはSearchフィールドに入力された情報を含みIgnoreフィールドの基準に当てはまるソングを除いたソングのみを表示します。

前述の表を使用した場合、Ignoreフィールドに「lover」を入力して得られる結果は以下の通りです：

Artist*	Song	Album
Deee-Lite	Power of Love	World Clique
Jennifer Love Hewitt	Can't Stand in the Way of Love	Let's Go Bang

お分りの通り検索結果からは「I'd Rather Be Your Lover」が取り除かれています。

***注意：**ここに記載されているアーティスト名及びバンド名は情報提供のみを目的とし、アーティストまたはバンドがTorq LEを推奨または後援していることを暗示するものではありません。

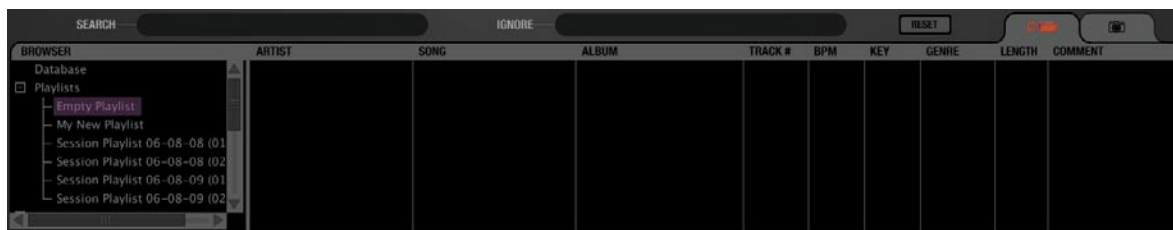
■ Reset (リセット) ボタン

検索が終了し新たな検索を始める場合は、まずResetボタンを押します。SearchとIgnoreのフィールド内を消去し選択されていたカテゴリの選択を解除します。

Playlists (プレイリスト)

多くのDJは、リハーサルや準備をせずに即興でパフォーマンスを行います。また、DJの中にはセットが複雑なために、重要なソングを覚えておく方法としてセットを事前にプログラムしているDJも居ます (結婚披露宴やリクエストで曲を演奏するDJには効果的な方法です)。

Torq LEのPlaylistでは、ソングのリストを整理したり保存することができます。複数のプレイリストのそれぞれに好きな数だけソングを入れてプレイリストを作成して管理することができます。各プレイリストはトラックを追加/削除して編集したりプレイリスト内で順序を入れ替えて編集することもできます。



■ 新規のPlaylists (プレイリスト) を作成する

最初に新規のプレイリストを以下の方法で作成します：

1. Browserの中にあるPlaylistsを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) しポップアップ・メニューから「New Playlist」を選択します。
2. 「Empty Playlist」のタイトルの付いたプレイリストが「Playlists」の下に表示されます (Playlistsの左の「+」をクリックすると表示されます)。

注意：既に「Empty Playlist」がリストに存在する場合、新規プレイリストを追加すると区別するために「Empty Playlist 1」のように最後に数字が付きます。

■ Playlist (プレイリスト) に名前を付ける

1. 名前を付けるプレイリストを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) してポップアップ・メニューから「Rename Playlist」を選択します。
2. Playlistの名前を入力しコンピュータのキーボードのEnterキーを押します。
3. プレイリストに名前が表示されます。

■ Playlist (プレイリスト) を削除する

1. 削除するPlaylistを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) してポップアップ・メニューから「Delete Playlist」を選択します。
2. PlaylistはTorq LEのリストから削除されますがコンピュータ内の「Deleted Playlists」フォルダに残っています。このフォルダ内のプレイリストは30日間保存されその後は完全に消去されます。

■ Playlist (プレイリスト) を複製する

特定のプレイリストに基づいて新たにプレイリストを作成する場合は、元になるプレイリストを複製して編集を加えることができます。

1. Playlistを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) してポップアップ・メニューから「Duplicate Playlist」を選択します。
2. 選択したプレイリストが複製され元のプレイリストの下に表示されます。
3. 複製したプレイリストには、元のプレイリストと区別するために名前の最後に数字が付属します。前述の方法で複製したプレイリストに新しく名前をつけることができます。

■ Playlist (プレイリスト) にソングを追加する

Browser (ブラウザ) またはDatabase (データベース) を使用してPlaylistに加えるソングを検索します。

1. Browser (ブラウザ) またはDatabase (データベース) を使用してPlaylistに加えるソングを検索します。
2. ソングの名前を右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) してポップアップ・メニューから「Add to Playlist」 (プレイリストに追加) を選択します。
3. ソングはプレイリストの一番下に追加されます。

■ Playlist (プレイリスト) からソングを削除する

プレイリストから以下の方法でソングを削除することができます：

1. プレイリスト内のソングを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) します。
2. ポップアップ・メニューから「Remove from Playlist」 (プレイリストから削除) を選択します。
3. Torq LEはソングをプレイリストから削除しますが、ソングはTorq LEのDatabaseに残ります (コンピュータから削除されることはありません)。

■ Playlist (プレイリスト) のソングを並べ替える

プレイリスト内に表示されているソングの順序を変更することができます。

1. リスト内でソングをクリックし上下にドラッグして移動させます。
2. ソングをドラッグして他のソングより上にドロップした場合、移動したソングは他のソングよりも先の順序になります。

■ Playlist (プレイリスト) を有効にする

プレイリストを選択するとTorq LEはコンピュータのハードディスクを素早くスキャンし選択したプレイリストが参照するオーディオ・ファイルが全てコンピュータに存在することを確認します。Torq LEがプレイリスト内のソングを1つ以上確認できなかった場合（ソングを含むハードディスクがコンピュータから外されていたり、ソースのファイルがコンピュータから削除されている場合等）、以下のメッセージを含むポップアップ・ダイアログが表示されます。「Cannot find one or more of the files used in this Playlist. What would you like to do? (このPlaylistに使用されたファイルが1つ以上見つかりませんでした。どうしますか?)」以下に説明するボタンのうち1つを選択してクリックします。

- » **Ignore (無視)** : このボタンをクリックするとプレイリストはロードされますが、File Listウィンドウに紛失ファイルが全て赤で表示されます。
- » **Auto-scan (自動スキャン)** : このボタンをクリックするとTorq LEがコンピュータに接続された全てのハードディスク内を検索し紛失ファイルを見つけ出そうとします。別の場所と同じファイル名が発見されると新たなダイアログ・ボックスに次のメッセージが表示されます。「Would you like to use this file for [name of missing file]? (このファイルを[紛失ファイルの名前]の代わりに使用しますか?)」
 1. ここで「Yes」を選択するとTorq LEはそのファイルを使用し自動的にその他の紛失ファイルはこの同じフォルダに存在するものとみなします。ファイルが発見され次第自動的にロードされます。その他の紛失ファイルが同じフォルダ内にみつからない場合、Torq LEは次のファイルが見つかるまでハードディスクを検索します。
 2. ここで「No」を選択するとその他の場所を検索し続けます。
 3. 検索の結果適切なファイルが発見されない場合、次のメッセージを含むダイアログ・ボックスが表示されます「Cannot find [name of missing file] (紛失ファイルの名前)が見つかりませんでした)」。 「OK」をクリックするとTorq LEはFile Listに紛失ファイルを全て赤で表示し赤で表示したファイルは演奏されません。その他に検索する紛失ファイルがある場合検索は続行します。
- » **Manual (手動)** : このボタンをクリックすると標準のオペレーティング・システムによるダイアログ・ボックスが表示され、ハードディスク内のオーディオ・ファイルを自分で検索できます。特定の紛失ファイルを検索していたとしても、その代わりとして使用できるオーディオ・ファイルを選択することもできます。File Listに表示されている紛失ファイルと異なるファイルを選択した場合、新しく選択したファイルのID3タグ情報が元のソングの代わりに（プレイリスト内に）表示されます。

■ Playlist (プレイリスト) を保存する

Torq LEではPlaylist (プレイリスト) を標準の.m3uプレイリストにエクスポートすることができ他のプログラムでも使用することができます。

1. 保存するプレイリストを選択します。
2. プレイリストを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) してポップアップ・メニューから「Save Playlist (プレイリストの保存)」を選択します。
3. 標準のダイアログ・ボックスが表示され保存する場所を選択しファイルに名前をつけることができます。Enterを押して終了します。
4. プレイリストはコンピュータに保存されました。

■ Playlist (プレイリスト) をロードする

Torq LEは .m3uファイル形式に準拠するその他のプログラムにより作成されたプレイリストをインポートすることができます：

1. Browserウィンドウにあるプレイリストの見出しを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) します。
2. ポップアップ・メニューから「Load Playlist (プレイリストをロードする)」を選択します。
3. 標準のダイアログ・ボックスが表示されプレイリストの場所を特定し選択することができます。
4. プレイリストを選択するとプレイリストがTorq LEにインポートされTorq LEは前述の説明の通り必要なファイルが存在することを確認する作業を始めます。

Session Playlist (Sessionプレイリスト)

Session Playlistは、自動プレイリストでTorq LEを起動してから演奏したソングは全て記録されています。既に演奏したソングを閲覧したり、前回のギグで演奏したリストを参考にしたい時などに便利です。

Torq LEを起動する度に中身が空白のSession Playlistが作成されます。「Session Playlist YY-MM-DD」の名前が付きますが、YYは年、MMは月、DDは日付を示し、Playlistが作成された年月日を記録します。デッキにロードした各ソングは自動的にSession Playlistに追加されます。

注意：現在の年月日の付いたPlaylistが存在する場合、新たに作成されたSession Playlistには最後に数字が付きます。



BROWSER	ARTIST	SONG	ALBUM	TRACK #	BPM	KEY	GENRE	LENGTH	COMMENT
Database	jido-genshi	Buddha Bounce	Outward Reflections	1/2	72.9	D Major	Downtempo	0:48	Copyright 2003 Genshi Media
Playlists	jido-genshi	Starmin (bigbeat mix)	Outward Reflections	2/2	170.0	D Major	Big Beat	0:48	Copyright 2003 Genshi Media
Empty Playlist	Funky Drummer				97.0			0:02	
My New Playlist	Funky Drummer				97.0			0:02	
Session Playlist 06-08-08 (01)									
Session Playlist 06-08-08 (02)	jido-genshi	Buddha Bounce	Outward Reflections	1/2	72.9	D Major	Downtempo	0:48	Copyright 2003 Genshi Media
Session Playlist 06-08-09 (01)									
Session Playlist 06-08-09 (02)									

注意：Torq LEは、Session Playlistを30日間しか保存しません。30日を過ぎたSession Playlistは自動的に削除されハードディスクがPlaylistにより過密状態になるのを防ぎます。

■ Session Playlist (Sessionプレイリスト) に名前を付ける

Session Playlistを永久的に保存するには、名前を付けるだけです。名前を付けたプレイリストはSession Playlistの集合から除外され通常のプレイリストとして保存されます。以下の方法に従い名前を付けます。

1. Session Playlistを右クリック (MacintoshではCtrlを押しながらクリック) しポップアップ・メニューから「Rename (名前を付ける)」を選択します。
2. プレイリストに名前を付けてEnterキーを押します。
3. プレイリストが保存されます。一旦、現在のSession Playlistに名前を付けると新規のSession Playlistが作成されこの時点から演奏されるソングは全てそこに記録されます。

■ Session Playlist (Sessionプレイリスト) を削除する

Session Playlistは、標準のプレイリストを削除するのと同じ方法で削除することができます。現在のSession Playlistを削除すると新規のSession Playlistが作成され、この時点から演奏されるソングは全てそこに記録されます。

iTunes

iTunesはApple社が提供する無料のメディア・プレイヤーでMacintosh版とWindows版の両方がダウンロードできます。音楽のダウンロード、整理、リッピング等には優れた手段を提供しApple社の人気の高い携帯型メディア・プレイヤーiPodと互換性があります。

Torq LEは、iTunesと互換性があり音楽やプレイリストの全コレクションに即座にアクセスが可能でDatabase（データベース）に手動でフォルダを追加する必要がありません。更に、iTunesライブラリやプレイリストに更新/変更を加えるとTorq LEにも自動的に反映されます。

■ Library (ライブラリ)

iTunes Library (iTunesライブラリ) は、iTunesが現在管理している音楽とビデオの全コレクションです。iTunesの見出しの左側にある[+]をクリックしてLibrary (ライブラリ) の見出しをクリックするとiTunes Library (iTunesライブラリ) を閲覧/検索することができます。Library (ライブラリ) の内容はFile List (ファイル・リスト) に表示されます。

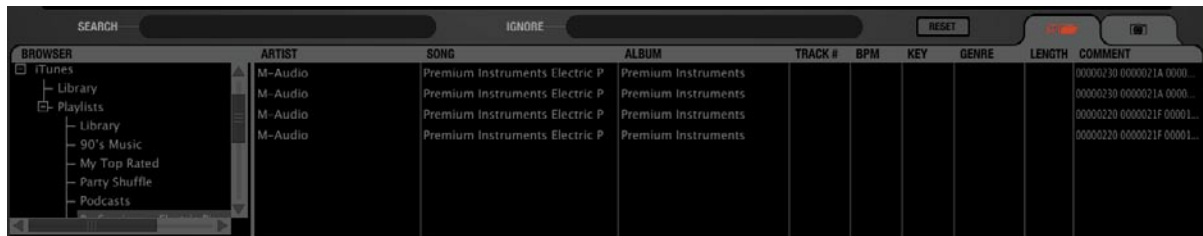


注意：特に膨大なiTunes Library (iTunesライブラリ) をTorq LEのセッションで初めて使用する場合、Torq LEが全コレクションを読み取るのに時間がかかる場合があります。

Library (ライブラリ) の見出しをクリックするとライブラリの内容は前述のDatabase（データベース）と同じ方法で検索/並べ替えができます。

■ Playlists (プレイリスト)

iTunesでもプレイリストを作成/変更が可能ですが、Torq LEで使用する.m3u形式とは異なる形式のファイルを使用します。Torq LEではBrowser（ブラウザ）の中のiTunesの見出しからこれらのプレイリストにアクセスすることができます。Playlist（プレイリスト）の左にある[+]をクリックしてファイルを参照します。File List（ファイルリスト）の内容を確認するにはそれぞれのPlaylist（プレイリスト）をクリックします。



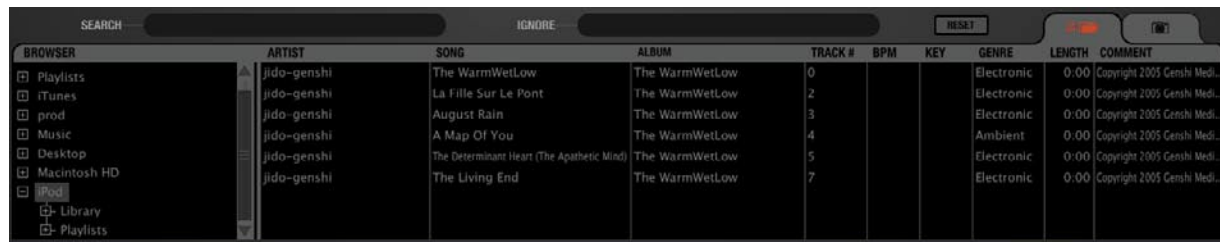
■ Database (データベース) からiTunesを検索する

Torq LEでは、iTunes Library (iTunesライブラリ) の内容をDatabase（データベース）に自動的に追加することができます。Browser（ブラウザ）内でDatabase（データベース）の見出しをクリックするとDatabase（データベース）に割当てられたiTunes Library (iTunesライブラリ) 内にある全てのフォルダからのファイルとiTunes Library (iTunesライブラリ) 内の全てのファイルを検索することができます。この機能を有効にする方法は以下の通りです：

1. Preferences（プリファレンス）メニューを開きます。
2. Miscのタブをクリックします。
3. 「Search iTunes Library with Database」（DatabaseからiTunes Libraryを検索する）の横の「Yes」を選択します。
4. Preferences（プリファレンス）メニューを閉じます。
5. Torq LEではDatabase（データベース）の見出しをクリックするとiTunes Library (iTunesライブラリ) の内容が含まれるようになります。

iPods

Torq LEでは、iPod（但しiPod Shuffleは除く）を接続するとコンテンツに直接アクセスすることができます。iPodを接続するとBrowser（ブラウザ）ウィンドウにコンテンツがリストされます。



前述のiTunes Library（iTunesライブラリ）と同様にiPodの内容はLibrary（ライブラリ）またはPlaylist（プレイリスト）の見出しを使用して検索することができます。iPodの内容は、以下の方法でDatabase（データベース）に追加することができます：

注意：Torq LEを起動してからコンピュータにiPodを接続した場合、Browser（ブラウザ）ウィンドウを再読み込みしてBrowser（ブラウザ）リストに新規iPodを表示する必要があります。この操作はコンピュータのキーボードでF5のキーを押すか、ウィンドウの上部のメニューからBrowserをクリックします。

1. Preferences（プリファレンス）メニューを開きます。
2. Miscのタブをクリックします。
3. 「Search iPod With Database」（DatabaseでiPodを検索する）の横にある「Yes」を選択します。
4. Preferences（プリファレンス）を閉じます。
5. Database（データベース）の見出しをクリックするとTorq LEではiPodからのソングが追加されます。

注意：iPodのオーディオ・ファイルのコレクションが膨大であればTorq LEのセッションで初めて使用する場合、Torq LEが全コレクションを読み取るのに時間がかかる場合があります。

Torq LEはiPodから直接音楽を受信することに注意して下さい。iPod内の音楽の再生が終了するまでiPodの接続を外さないようにして下さい。

Drives（ドライブ）

Torq LEでは、コンピュータに接続されている全てのハードディスクなら内部ハードディスク、外部のハードディスクの区別なく検索することができます。システムで有効な全てのディスクはBrowser（ブラウザ）内に名前順にリストされます。ドライブの左側の[+]をクリックするとディスクの内容が表示されます。前述の方法で外部のディスクからDatabase（データベース）へフォルダを追加することができます。

注意：Torq LEを起動してからコンピュータに外部のハードディスクを接続した場合、Browser（ブラウザ）ウィンドウを再読み込みしてBrowser（ブラウザ）リストに新規ディスクを表示する必要があります。この操作は、コンピュータのキーボードでF5のキーを押すかウィンドウの上部のメニューからBrowserをクリックします。

Audio CD（オーディオCD）

Torq LEでは、コンピュータのCDドライブに挿入されたオーディオCDの音楽を再生することができます。Browser（ブラウザ）内のAudio CDの見出しをクリックしCDからオーディオ・トラックを選択できます。

Torq LEは、コンピュータの一時ファイルにCDからのオーディオをリッピングする必要があるため、ソングをデッキにロードしてから再生可能な状態になるまで多少の時間がかかります。この場合、ロードに時間がかかるのは通常の動作です。

注意：Torq LEを起動してからコンピュータにオーディオCDを挿入した場合、Browser（ブラウザ）ウィンドウを再読み込みしてBrowser（ブラウザ）リストに新規CDを表示する必要があります。この操作は、コンピュータのキーボードでF5のキーを押すかウィンドウの上部のメニューからBrowserをクリックします。

M-AUDIO

MIXER (ミキサー)

DJ演奏における最初のステップは音楽のコントロールです。このためにTorq LEのデッキが存在します。第二のステップはミキシングと呼ばれ音楽を1つにブレンドします。ご想像の通りTorq LEには勿論この機能が搭載されています。ソフトウェアに搭載されているものの、Torq LEのミキサーは最高級ラインのハードウェア・ミキサーと同様のサウンドで同様の動作をします。ミキサーを使用したことがあれば簡単に操作が可能でDJが従来のハードウェア・ミキサーで使用しているのと同じトリックやテクニックを実行することができます。

Mixer Architecture (ミキサー・アーキテクチャ)

ミキサーに搭載されているノブやスライダを動かす前に、ミキサーの構造と構成部品のシグナル・フローについて基本的な理解することが必要です。基本が理解できていないとコントローラによっては別のコントローラを知らず知らずのうちにコンフリクトを起こす位置に設定しているために誤作動または完全に操作不可能に見えるものもあります。またここでは、これから本マニュアルで繰り返し使用される基本的な用語についても説明します。

Channels (チャンネル)

デッキからミキサーに送信されたオーディオはチャンネルに入ります。チャンネルはミキサーの中にあり1つのオーディオ・シグナルを処理するセクションです。Torq LEには、2つのデッキが装備されているのでミキサーにはそれぞれのデッキに対応する2つのチャンネルがあります。両方のデッキのシグナルが同じミキサーに入り、その中でそれぞれのチャンネルに別れ、それぞれを別個に処理してから1つのチャンネルにミックス（これが聞こえてくるサウンドです）されます。

Gain/Mute (ゲイン/ミュート)

デッキからのオーディオがミキサーに送信されると、まずゲイン・コントロールに入ります（ミキサーの各チャンネルの一番上に表示されています）。このノブで入力オーディオ・シグナルのボリュームを調整し静かなソングのレベルをブーストしたり大きな音のソングを緩和したりします。これは、高品位のオーディオを維持しミックスしている2つのソングのレベルを同じにするのに必要な基本のステップです。

Torq LEのゲイン・ノブは、入力シグナルを最大6dB分ブーストするか、または最大12dB分低くすることができます。ゲイン・ノブの横にある「X」ボタンはMute（ミュート）ボタンです。このボタンを有効にすると入力オーディオをミュートしチャンネルからサウンドは出力されません。

Chapter

8

MIXER (ミキサー) 40

Mixer Architecture (ミキサー・アーキテクチャ) 40

Channels (チャンネル) 40

Gain/Mute (ゲイン/ミュート) 40

EQ/Kills (EQ/キル) 41

PFL/Headphone Cue (PFL/ヘッドフォン・キュー) 41

Channel Volume (チャンネル/ボリ ューム) フェーダ 42

Crossfader (クロスフェーダ) 42

EQ/Kills (EQ/キル)

シグナル・チェーン内で次に来るのは、Equalizer (イコライザー) でこれはEQと略します。ゲイン・ノブ (一番上) は、チャンネルのオーディオ・シグナル全体のレベルを上下させますが、EQはオーディオ・シグナル中の特定の周波数帯域のレベルのみを上下させます。Torq LEは、3バンドEQが装備されこれによりHigh (高周波)、Mid (中周波)、Low (低周波) の3つの周波数帯域のレベルをそれぞれコントロールできます。

各ミキサーチャンネルでは、3バンドEQが縦に並び、それぞれにノブとボタンが装備されています。一番上がHi EQ (高周波EQ)、その下がMid EQ (中周波EQ)、一番下がLow EQ (低周波EQ) です。各ノブの隣の「X」ボタンは「Kill」(無効) ボタンです。「X」ボタンを有効にすると、関連する周波数帯域がオーディオから完全に切り除かれるため、Xボタンを3つとも全て有効にするとオーディオ・シグナルは完全にミュートされます。

EQは、DJミキサーにおいて最もパワフルなツールです (DJの中にはクロスフェーダが究極の武器だと言う人もいます)。EQを使用する目的は (1) 録音状態や制作状態の悪いソングのサウンドの質を改善する (2) 2つのソングの全体の周波数のコンテンツをマッチングさせる (3) 周波数帯域を1つ以上選択して取り除いたり分離させたりして音楽を強調する (4) 2つのソングを同時に演奏しながら周波数帯域をジグソーパズルのように取り替えながらソングをミックスするというこの4点です。

古いソングは、一般的に最近のトラックのように余り低音の効果がありません。Torq LEでは、Low EQ (低周波EQ) を使用して古いソングの低音 (低周波数帯域) をブーストして最近のソングの大きい低音にマッチングさせることができます。この機能を使用しないと最近のソングから古いソングへミックスすると音楽が静かになったように聞こえます。

同様に、同じ年に録音されたトラックでも音量を同じにして演奏してもそれぞれ違ったボリュームに聞こえることがあります。これは通常、片方のソングの中周波数帯域がもう一方よりも強い場合に起こります。2つのソングで低音の音量が同じくらいならMid EQ (中周波EQ) を使用して音が大きい方のソングを静かな方のソングに調和するようEQを下げるすることができます。

DJは、演奏するソングに独自の操作を加えてセット中にミックスする場合があります。例えばDJは、ソングのコーラスが始まる2、3ビート前に高周波数帯域と低周波数帯域をカットしコーラスが始まった瞬間に両方の周波数帯域を戻す場合があります (Torq LEではHighとLowのKill (無効) ボタンである「X」ボタンを使用すれば完璧です)。

2つのソングが同時に演奏されていれば、音楽は濁ったように聞こえることがしばしば起こります。これは通常、2つのソングの低音部分が「補足的でない」ためです。つまり、2つのソングのキーが異なる場合や、両方のソングに長くサステーンする低音のノートがある場合を指します。濁りを解消するには、片方のソングのLowの「X」ボタンを使用して低音部分を取り除くことができます。もう一方のソングの低音は、ミックスに残るため自然な感じに聞こえます。準備ができれば両方のLowの「X」ボタンを同時に押します。これにより、もう一方の低音が取り除かれ最初に低音を取り除いた方の低音が戻ります。全体のミックスの低音部分が変化したように聞こえミックスは完全なサウンドのままです。他の周波数帯域においても同様に周波数のスワッピング (交換) を行うことができます。スワッピングが突然起こったように聞こえなくするには「X」ボタンの代わりにEQノブを使用します。

注意: Torq LEのEQノブはX-Session Proハードウェアに装備されたHigh/Mid/Lowのノブを使用して調整することができます。X-Session Proについては第13章を参照して下さい。

PFL/Headphone Cue (PFL/ヘッドフォン・キュー)

オーディオ・シグナルがEQから出ると2種類の場所に送信されます。1つはPFLボタンで、これはヘッドフォンの型のアイコンです。PFLとはPre-Fader Listenの略で、ボリューム・フェーダの影響を受ける前にオーディオ・シグナルを試聴することです (ミキサーによってはこの機能はキューと呼ばれます)。ミキサーに詳しくなければ、余り意味のある言葉には聞こえないかもしれませんが、オーディエンスに聞こえている (または聞こえない) 音楽とは関係なくミキサーチャンネルの音楽を試聴する方法と考えて下さい。

DJがソングをオーディエンスに聞かせる前に次の曲を聴くために使用するのがこの方法です。PFLボタンを押すとそのチャンネルは以下に説明する通りPFLセクションに送信されます。ヘッドフォンで音楽を聴くことができ更にSampler (サンプラー) に録音することもできます。

Torq LEで画面上のCue (キュー) ボタンを使用する代わりにX-Session Proハードウェア・コントローラに装備されたHeadphone Cue (ヘッドフォン・キュー) ボタンを使用することもできます。X-Session Proについては第13章を参照して下さい。

Channel Volume (チャンネル/ボリューム) フェーダ

PFLに送信される前にEQを出たオーディオはチャンネル・ボリューム・フェーダに送られます。これは主にチャンネルのボリューム・コントロールです (クロスフェーダに従属しています) が、従来のミキサーのボリューム・フェーダと同様の動作をします。チャンネル・ボリューム・フェーダを使用して2つのトラックのボリュームを合わせることができます。しかしながらDJによっては、チャンネル・ボリューム・フェーダを全く使わないことを好みソングのボリュームをGain (ゲイン) ノブを使用してマッチさせる場合もあります。この理由は、ボリューム・フェーダをボリュームのフェード、カット、スタッター・エフェクト (クロスフェーダで使われるスクラッチのテクニックに似ています) 等の別のエフェクトに自在に使用することができるからです。どちらの方法を選択するかはDJ次第です。

Torq LEで画面上のChannel Volume (チャンネル・ボリューム) フェーダを使用する代わりにX-Session Proハードウェア・コントローラに装備されたVolume (ボリューム) スライダを使用して調整することもできます。X-Session Proについては第13章を参照して下さい。

注意: Channel Volume (チャンネル・ボリューム) フェーダのボリュームを一番上まで瞬時に上げるには、Shiftキーを押しながらフェーダをクリックします。

Crossfader (クロスフェーダ)

オーディオがChannel Volume (チャンネル・ボリューム) フェーダを通過しそれぞれのミキサーチャンネルを出ると左右それぞれの側にあるクロスフェーダに送られます。クロスフェーダは、ミキサーの下にある横向きの大きなフェーダです。お分かりの通りミキサーをばさんで2つのチャンネルの間を両側に徐々に動くのでクロスフェーダという名前は大変に適切な名前です。クロスフェーダを一番左まで動かすと、左のデッキAのチャンネルだけを聴くことができます。同様にクロスフェーダを一番右まで動かすと右のデッキBのチャンネルだけを聴くことができます。

クロスフェーダは、片手だけで簡単に1つのソングをフェードアウトしてもう1つのソングへとフェードインできる方法をDJに提供するために発明されました。実際、今でもこの目的で使用されています。しかしながら、導入されて以来DJはこのシンプルなツールをバーチャルなカミソリの刃のように進化させ、光速カット、スクラッチ等その他多くのテクニックを実行するために使用しています。

Torq LEで画面上のクロスフェーダを使用する代わりにX-Session Proハードウェア・コントローラに装備されたクロスフェーダを使用することもできます。X-Session Proについては第13章を参照して下さい。

注意: Torq LEのクロスフェーダは、大変に速く優れた反応を実現するようデザインされています。しかしながらTorq LEをマウスでコントロールしている場合、クロスフェーダをソング間でフェードする目的以外に使用することができません。カットやスクラッチングの目的でクロスフェーダを使用するには、SynchroScienceコントローラ (X-Session Pro等) に見られるような本物のクロスフェーダを使用してTorq LEのクロスフェーダをコントロールすることをお勧めします。クロスフェーダをフィジカルにコントロールすることがスクラッチのテクニックでは不可欠な要素です。

■ Crossfader Curve (クロスフェーダ・カーブ)

スクラッチングと言えば、クロスフェーダのデザインで改良されたことの1つは調整可能なクロスフェーダ・カーブです。クロスフェーダ・カーブとは、クロスフェーダを左から右に (または右から左に) 動かすにつれてソングがフェードイン/フェードアウトする速度に関連します。

カーブの調整範囲における2つのうち1つの限界カーブは、Equal Power Contour (イコール・パワー・コンツア) で2つのソングをゆっくりフェードさせるには良い方法です。フェーダを一番端から中央に動かすにつれて、もう1つのソングに少しずつフェードインします。1つのソングにフェードインしながら同時にもう1つのソングからフェードアウトします。最終的には、2つのソングが同時に演奏していてもフェードしながら全体のボリュームがそのまま維持されます。

もう1つの限界カーブは、Hard Cut (ハードカット) です。このカーブでは、ソングはフェーダを片方の端からもう一方の端へ動かした後すぐソングがそのままのボリュームでフェードインします。同様に、もう1つのソングはクロスフェーダがもう一方の端にほぼ到達するまでフェードアウトが開始しません。クロスフェーダが端に到達する直前にもう1つの曲がフェードインします。これは、スクラッチDJが好む方法で手を殆ど動かすことなくボリュームはそのままにトラックをカットインすることができるためです。素早く作業を行うとボリュームが一旦フェードアウトするようには聞こえません。サウンドが突然カットイン/アウトしたように聞こえます。

Torq LEを起動するとクロスフェーダのカーブは以上2つのカーブの中間に位置するカーブに設定されています。カーブは以下の方法で変更することができます：

» **マウスを使用して調整する**

1. コンピュータのキーボードでShiftキーを押します。
2. Shiftキーを押しながらクロスフェーダをクリックしてドラッグします。クロスフェーダ自体は動きませんがクロスフェーダ内の色の変化して新しいカーブに変化が起きていることがわかります。青い部分が端まで広がるにつれてクロスフェーダ・カーブはHard Cut（ハード・カット）のカーブに近付きます。青い部分が無い場合がEqual Power Contour（イコール・パワー・コンツア）です。

» **MIDIを使用して調整する**

1. Preferences（プリファレンス）ボタンを押してプリファレンスのメニューを表示します。
2. MIDIのタブをクリックします。
3. Crossfader Curve（クロスフェーダ・カーブ）の横にあるLearn（ラーン）ボタンをクリックします。ボタンは赤く点灯します。
4. クロスフェーダ・カーブのコントロールに使用するノブまたはフェーダを動かします。Torq LEは入力MIDIメッセージを受信しクロスフェーダ・カーブが割当てられます。
5. プリファレンス・メニューを終了します。

■ **Crossfader Assign（クロスフェーダの割当て）**

高度なクロスフェーダにおけるもう1つの重要な要素は、Crossfader Assignment（クロスフェーダの割当て）です。上記の説明の通り、左のデッキAはクロスフェーダの左側にルーティングされ右のデッキBは右側にルーティングされます。クロスフェーダの割当てボタンをクリックするとクロスフェーダが右にある時左のデッキAが聞こえてきてその逆も同時に起こります。これは「ハムスター・スタイル」とも呼ばれています。

■ **Transform（トランスフォーム）ボタン**

スクラッチDJに欠かせない機能の1つは、Transform（トランスフォーム）ボタンです。Transform（トランスフォーム・ボタン）は、クロスフェーダの左右に位置します。Transform（トランスフォーム）ボタンを押すと関連するチャンネルが一時的にクロスフェーダをバイパスしメインのミックスに送信されます。例えば、クロスフェーダが一番左の端にある時は左のデッキAの音しか聞こえません。右のTransform（トランスフォーム）ボタンを押すと左のデッキAと共に右のデッキBも合わせて聴くことができます。

M-AUDIO

PFL/HEADPHONE CUE (PFL/ヘッドフォン・キュー)

一般的なDJ演奏をご覧になればお分かりかと思いますが、DJはターンテーブルとミキサーのセットの向こう側にヘッドフォンを耳に当てて立っているものです。オーディエンスは、スピーカーから流れる音楽に合わせて踊っているのに、DJはヘッドフォンで何を聞いているのでしょうか?DJはPFLを使用して次に演奏するソングを聞いているのです。ソングのテンポをマッチできたかどうかDJはこのようにして確認します。この方法でソングを開始する完璧な時点を見つけるのです。Torq LEでは、PFLシステムにCue Volume (キュー・ボリューム) フェーダ、Cue Split (キュー・スプリット) ボタン、Cue Source (キュー・ソース) ノブの3種類のコントロールが搭載されています。

Volume Control (ボリューム・コントロール)

Cue Volume (キュー・ボリューム) フェーダは、オーディオ・インターフェイスに送信されるシグナルの音量を調整します。オーディオ・インターフェイスのボリューム・コントロールに簡単にアクセスできない場合 (または装備されていない場合) にボリューム・コントローラとして使用することができます。

Split (スプリット) ボタンとSource (ソース) ノブ

Cue Split (キュー・スプリット) ボタン (ユーザー・インターフェイスではSplitと表示されています) は、Cue Source (キュー・ソース) ノブの動作を決定します。Splitボタンがオフの時Cue SourceノブはPFLオーディオ・シグナル (DJだけに聞こえる) とメイン・ミックス (オーディエンスに聞こえる) をブレンドします。ノブは、これら2つのソースをブレンドすることができるため実際にミックスする前にミックスがどのようなようになるかを聴くことができます。トラックが適切に整列していることや音量が適切であることを確認する方法でもあります。

Splitボタンを押して有効にするとヘッドフォンから聞こえるサウンドが変化します。ヘッドフォンの左側には左のデッキAのサウンドが聞こえヘッドフォンの右側には右のデッキBのサウンドが聞こえます。これはあたかも2つのチャンネルの間のミキサーの中に頭を入れて各チャンネルを個別に聞いている状態です。DJによっては、このモードの方が2つのトラックのリズムやテンポのずれを簡単に聴くことができる場合もあります。一度試して比較してみてください。

注意: Split (スプリット) モードでは、Cue Source (キュー・ソース) ノブはヘッドフォンで2つのデッキの相対的なボリュームを調整します。オーディエンスはいずれかのデッキのサウンドを聴くことができることを忘れてはいけません。

Chapter

9

PFL/ヘッドフォン・キュー 43

ボリューム・コントロール 43

スプリットボタンとソースノブ 43

M-AUDIO

MASTER OUTPUT (マスター出力)

Master Output (マスター出力) は、Torq LEのオーディオ・シグナル・フローで音楽がオーディエンスに聞かれる前の一番最後のステップです。マスター・モジュールには、Master Level (マスター・レベル) スライダ、Master Level (マスター・レベル) メーター、Master Limiter (マスター・リミッター)、Audio Recorder (オーディオ・レコーダー) が含まれます。これらのコントロールは全て右のデッキBの下に横に整列しています。



Volume Control (ボリューム・コントロール)

お分りの通りMaster Volume (マスター・ボリューム) スライダは、Torq LEのメインの出力の全体音量をコントロールします。このスライダは、Torq LEのFile Recorder (後に説明します) のレベルを設定する時にも使用します。Channel volume (チャンネル・ボリューム) フェーダとは異なり、Master Volume (マスター・ボリューム) スライダは左右に動きます。スライダを右に動かすと出力ボリュームが大きくなり左に動かすと出力ボリュームは小さくなります。

Level Meter (レベルメータ) とLimiter (リミッター)

Master Level (マスター・レベル) メータは、Master Volume (マスター・ボリューム) スライダの中にあります。音楽の演奏中はメータが動いているのがわかります。

Torq LEは、デジタル・オーディオ・システムであるためヘッドルーム (ダイナミック・レンジ) の量には制限があります。ミックスがヘッドルームを超えると通常はクリッピング (ディストーション) が発生します。この不快な音を防ぐためにTorマスター出力にリミッターが搭載されメインの出力がクリッピングしないように維持します。

マスター・ボリュームの一番右にある黄色のインジケータが点灯するとリミッターがクリッピングからシステムを保護していることを表示しています。マスター・ボリュームが最大ヘッドルームを超える度に素早くボリュームを下げることでこれを実現します。リミッターは絶対確実なものではありません。リミッターを常にトリガーしていることのないよう注意する必要があります。ミックスのボリュームが大き過ぎる場合、リミッターは常にボリュームを下げるため奇妙なサウンドに聞こえます。黄色のインジケータがミックスの間点灯していればマスター・ボリュームのスライダで音量を下げミックスが常にリミッターを使うことのないようにします。ここでボリュームを下げた分は、ハウス・サウンドのシステムのボリュームを上げて補うことができます。

Master Recorder (マスター・レコーダー)

Master (マスター) モジュールは、レコーダーのモジュールを搭載しオーディオ・ファイルを演奏しながら、ミックスを録音して保存することができます。録音したミックスは、例えば、CDに焼いたりポッドキャストとして配信することもできます。

ミックスを録音するプロセスは大変に簡単です。ミックスに名前をつけてハードディスクの場所を選択して保存するだけです。それからミックスを始めます。ミックスが終わったらStop (停止) ボタンを押すとファイルは使用可能な状態になります。

Chapter

10

マスター出力	44
ボリューム・コントロール	44
レベルメータとリミッター	44
マスター・レコーダー	44
ファイル名	45
録音レベルを設定する	45
録音する	45

Filename (ファイル名)

録音するファイルに名前を付けます：

1. Filename (ファイル名) ボタンをクリックします (名前が設定されていない場合には、Master Volumeの右側に小さく"..."と表示されています)。ダイアログボックスが開きます。
2. 録音を保存するフォルダの場所を選択します。ファイルに名前を付けてenterキーを押します。ダイアログボックスが閉じFilename (ファイル名) ボタンにファイル名が表示されます

注意：録音したファイルのサンプリング・レートは、プリファレンスのAudio (オーディオ) タブで現在選択されているサンプリング・レートに一致します。

録音レベルを設定する

録音レベルの調整は、Master Volume (マスター・ボリューム) スライダを使用します。リミッターが常にトリガーされることがない状態でこのボリュームをできるだけ高くするのが理想的です (リミッターが稀にトリガーされるのは仕方ありません)。Master Volume (マスター・ボリューム) スライダの設定が低過ぎるとミックスは静かな録音になり品質が下がります。

注意：Master Volume (マスター・ボリューム) スライダに変更を加えるとミックスの最中に変更を加えてもレコーディングに反映されます。

録音する

ファイルに名前を付けて録音レベルを設定したら録音を開始します：

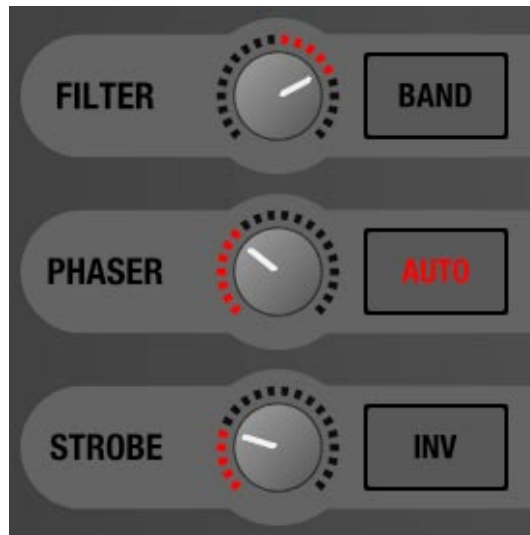
1. Record (録音) ボタンを押すとボタンが点灯し録音が始まったことを表示します。Record Time (録音時間) ウィンドウには録音時間がカウントされます。
2. ミックスを通常通り行います。
3. Record (録音) ボタンを再び押すと録音が停止しファイルは保存されます。

M-AUDIO

EFFECTS (エフェクト)

Effects (エフェクト) は、オーディオ・シグナルを加工します。微妙な変更から極端な変更まで広い変更範囲を持つTorq LEでは、クリエイティブで面白い演奏を作るための宝庫です。

各デッキは、複数のエフェクトで独立してプロセスすることができます。エフェクト・ラックは、各デッキとミキサーの間に位置しTorq LEに搭載のライブラリから最大3つのエフェクトを入れることができます。つまり各デッキで同時に最大3つのエフェクトを使用することができます。



Controls (コントロール)

搭載したエフェクトのコントロールは以下に説明する通りです。

Enable (有効) ボタン

エフェクトを使用する前にエフェクトを有効にする必要がありますこれがEnableボタンの目的です。デフォルトでは、このボタンは新規エフェクトをロードする度にオフになります。これにより、ミックスで使用する前にエフェクトを適切に設定することができます。

Tweak (ツイーク) ノブ

エフェクトが面白いのは、使用中にエフェクトの量を変更することができる点です。例えば、Reverb (リバーブ) やDelay (ディレイ) の長さを変更したり、Phaser (フェーザー) やFlanger (フランジャー) の強さを変更することができます。エフェクトをシンプルで簡単に管理するために、Torq LEでは各エフェクトに対しパラメータをコントロールするためのノブを装備しています。エフェクトは、オーディオを様々な方法で変更するため、このTweak (ツイーク) ノブの機能はスロットにロードするエフェクトの種類により変化します。このノブの機能については、後述の各エフェクトの説明を参照して下さい。

X-Session Proハードウェア・コントローラのノブ1、2、3を使用してTorq LEに搭載されたFilter (フィルタ)、Phaser (フェーザー)、Strobe (ストロボ) をコントロールすることができます。X-Session Proについては第13章を参照して下さい。

Tweak Button (ツイーク) ボタン

Tweak (ツイーク) ボタンは、Tweak (ノブ) と同様の方法で動作し選択したエフェクトのパラメータの状態を切り換えます。Tweak (ツイーク) ノブと同じくこのボタンの正確な機能については使用するエフェクトの種類によりこととなります。後述の各エフェクトの説明を参照して下さい。

Chapter

11

エフェクト	46
コントロール	46
有効ボタン	46
ツイークノブ	46
ツイークボタン	46
搭載されているエフェクト	47
フェーザー	47
デュアル・フィルタ	47
ストロボ	48

搭載されているエフェクト

以下は、Torq LEに搭載されている3種類のエフェクトの解説です：

Phaser (フェーザー)

Phaser (フェーザー) は、フランジャーの軽めのバージョンです。フランジャーと同じくPhaser (フェーザー) では2つの同一のオーディオ・ソースをミックスすることが原則です。しかしながら、フランジャーとは異なり2つのオーディオ・ソースのタイミングのずれは非常に小さいものです。その結果、ソングの周波数の中では除去またはキャンセルされるものがあります。「ウインドトンネル (風洞)」エフェクトとも呼ばれるエフェクトです。

■ Enable (有効) ボタン

このボタンはエフェクトのオン/オフを切り換えます。

■ Tweak (ツイーク) ノブ/ボタン

Phaser (フェーザー) のTweak (ツイーク) ノブの機能はTweak (ツイーク) ボタンにより決定されます：

- » Tweak (ツイーク) ボタンがオフの時、フェーザーはマニュアル・モードです。ツイーク・ノブはフランジャーのフェーズをコントロールします。
- » Tweak (ツイーク) ボタンがオンの時、フェーザーは自動モードです。自動モードではフェーズが自動的に調節されます。ツイーク・ノブは自動調整の速さを設定しノブを右に回すにつれてモジュレーション速度が速くなります。

Dual-Filter (デュアル・フィルタ)

コーヒーのフィルタは、コーヒー豆を挽いたものが湯の中に落ちないようにデザインされています。オーディオ・フィルタも同様の方法で動作し、オーディオ・シグナル内の特定の周波数帯域を通過させないようにします。様々な趣向が凝らされたフィルタがありますが、Torq LEには最もよく使われるローパス・フィルタ、ハイパス・フィルタ、バンドパス・フィルタの3種類が搭載されています。それぞれに付けられた名前が動作を象徴しています。例えばローパス・フィルタは、低周波 (低音) だけがフィルタを通過し、オーディオ・シグナルの高周波 (トレブル) 部分が除去されます。ハイパス・フィルタはその逆で、高周波 (トレブル) だけがフィルタを通過し低周波 (低音) は除去されます。バンドパス・フィルタはハイパス・フィルタとローパス・フィルタを組み合わせたもので、オーディオ・シグナルから高周波と低周波を除きその間の境域の周波数だけが通過します。

フィルタの最も重要なパラメータは、カットオフ周波数です。これによりフィルタが通過させない周波数の限界を決定します。例えばカットオフ周波数1kHzでローパス・フィルタを使用すると、1kHz以下の周波数は影響を受けずにフィルタを通過しますが1kHz以上の周波数は除去されます。その他のパラメータもフィルタの動作に影響しますがカットオフ周波数がTorq LEでコントロールできるパラメータです。

■ Enable (有効) ボタン

このボタンは、Dual-Filter (デュアル・フィルタ) のオン/オフを切り換えます。

■ Tweak (ツイーク) ボタン

Tweak (ツイーク) ボタンは、デュアル・フィルタ・エフェクトのフィルタ・モードを設定するために使用します。このボタンをオフにすると2つのフィルタ (ハイパスとローパス) は一度に1種類ずつしか調整できません。このボタンをオンにするとハイパス・フィルタとローパス・フィルタは連結し両方のフィルタが同時に調節できるバンドパス・フィルタを形成します。

■ **Tweak (ツイーク) ボタン**

このノブはフィルタのカットオフ周波数を調節します。

» Tweak (ツイーク) ボタンがオフの時、ノブは以下の通りに動作します：

1. ノブを中央に設定するとオーディオはデュアル・フィルタに影響されずに通過します。
2. ノブを中央から左に回すとローパス・フィルタのカットオフ周波数が徐々に低くなります。左に回すにつれて音楽は鈍く低音がうなるように聞こえ最終的に鈍くこもった音になります
3. ノブを中央から右に回すとハイパス・フィルタのカットオフ周波数が徐々に高くなります。右に回すにつれて音楽が貧弱になり高周波帯域の最も高い部分が残った時点で崩れたような音になります。

» ツイーク・ボタンがオンの時、ツイーク・ノブはバンドパス・フィルタの中央の周波数のみをコントロールします。ノブを左に回すにつれて高周波の部分が消え始め低音が徐々に多くなります。

Strobe (ストロボ)

過去20年間に一度でもクラブに行ったことがあれば、ストロボ（閃光灯）を見たことがあるはずですが、極端に明るいライトで非常に速い速度で点滅します。ストロボがあたると誰もが「ストップ・モーション」がかかったように見えますが点滅が大変に速いため動作が見えなくなるのです。

Torq LEのStrobe (ストロボ) エフェクトは、同様のストップ・モーション・エフェクトを作り出しますがオーディオに対して作用します。Strobe (ストロボ) は、本質的にコントロール可能な速度でオーディオをミュート/アンミュートします。その速度の下限は1小節（2ビートのアンミュートに続いて2ビートのミュート）、上限は1/64分音符です。

■ **Enable (有効) ボタン**

このボタンはエフェクトのオン/オフを切り換えます。

■ **Tweak (ツイーク) ノブ**

このノブは、Strobe (ストロボ) の速度を変化させます。このノブを調整するとツールチップに現在の速度（音符）が表示されます。

■ **Tweak (ツイーク) ボタン**

このボタンを有効にするとStrobe (ストロボ) エフェクトの動作を反転させ通常ミュートされる所がアンミュートになりアンミュートはミュートになります。

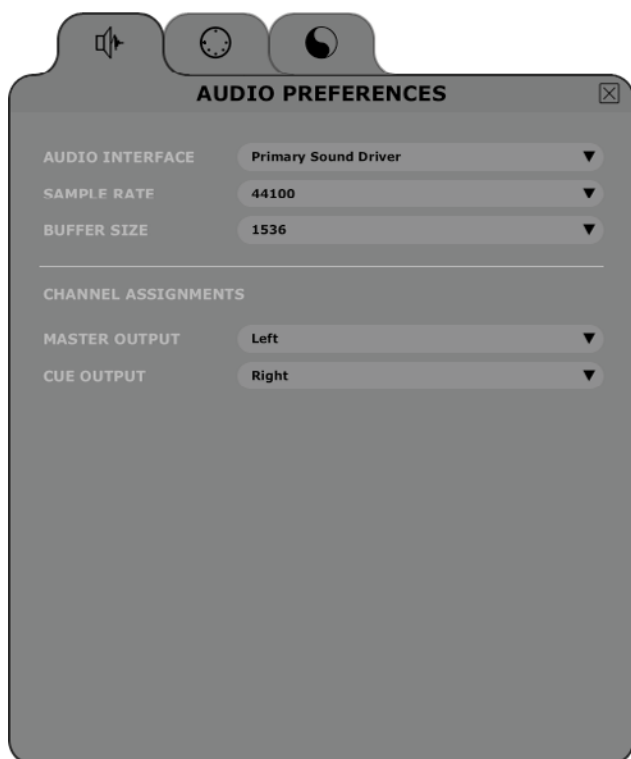
M-AUDIO

PREFERENCES (プリファレンス)

このセクションでは、Torq LEのPreference (プリファレンス) メニューを詳しく解説します。Preference (プリファレンス) アイコンをクリックしてメニューを開きます。



Audio Tab (オーディオ) タブ



Audio (オーディオ) タブでは、Torq LEで使用するオーディオ・インターフェイスに関連するオプションが含まれます。使用するオーディオ・インターフェイスを選択したり、サンプリングレートやバッファ・サイズを選択したり、様々な入出力の割当てを設定します。Torq LEは、WindowsではASIO、DirectXをサポートし、Mac OS XではCore Audioをサポートします。

注意: Torq LEは、1つのステレオ出力を備えたオーディオ・インターフェイスと動作しますが、複数の出力を装備するオーディオ・インターフェイスをご使用になることをお勧めします。出力が余分であれば、例えば、ソングのキューイングなどミックスの前にヘッドフォンでソングを試聴する時に使用することができます。

Audio Interface (オーディオ・インターフェイス)

このプリファレンスでは、Torq LEが演奏に使用するオーディオ・インターフェイスを選択することができます。

1. Audio Interfaceのボックスをクリックします。
2. メニューにはコンピュータに現在接続されている全てのオーディオ・インターフェイスがリストされます。
3. Torq LEで使用するオーディオ・インターフェイス (例えばSynchroScienceのConectiv) を選択します。

Chapter

12

プリファレンス	49
オーディオタブ	49
オーディオ・インターフェイス	49
サンプリング・レート	50
バッファ・サイズ	50
MIDIタブ	51
M-Audio機器の自動検知オン/オフ	51
スクラッチ感度	51
クロスフェーダ・カーブ・コントロール	52
MIDIシフト・キー	52
MIDI機器	52
その他タブ	53
Torqエンジン	53
キュー・エクスクルーシビティ	53
シャッフル・モード	54
クイックループ・サイズ	54
データベースでiPodを検索	54
データベースでiTunesを検索	54
トランスポート・モード	54
ツールチップ	54
シンク・モード	55
スキン	55

Sample Rate (サンプリング・レート)

Audio Interfaceの下のSample Rateでは、サンプリングレートを調節できます。大きな値では音質が改良されますが（ソースの材料に依存）コンピュータには大きな負担がかかります。従って、サンプリングレートは必要に応じた値にしてください。MP3ファイルやCDのソングを演奏する時は、MP3やCDに使用される基準のサンプリングレートである44.100よりも大きくする必要はありません。

Buffer Size (バッファ・サイズ)

オーディオ・プリファレンスにおいても1つの重要な設定は、Buffer Size (バッファ・サイズ) です。このパラメータは理解しにくいかもしれませんが実際にはそれほど複雑ではありません。バッファ・サイズがTorq LEのパフォーマンスに及ぼす影響を理解するには、まずコンピュータがオーディオをプロセスする方法を少し理解する必要があります。

Multi-tasking (マルチ・タスキング) は、複数の作業を同時に行うことを表す用語です。コンピュータが同時に2種類以上のプログラムを実行することができるようにするものです（例えば、インターネットを使用中にiTunesを聴く）。コンピュータが同時に2種類のことを実行しているように見えますが実際はそうではありません。コンピュータは一度に1つの作業をしますが目に見える速度よりずっと速く2つの作業を交互に行っているのです。

これは、オーディオ・ソフトウェアを使用する上では問題を生じます。オーディオはノンストップです。5分の曲は5分間停止せずに演奏します。コンピュータでは、その他の作業をこなすために飛び回りながらオーディオをどのようにして再生し続けるのでしょうか?その答えがバッファリングです。オーディオのバッファは、一時的に保存できるタンクのようなもので一瞬のオーディオを留めておくことができます。コンピュータは、オーディオ・バッファに音楽を入れておき他の作業（画面上で時計を合わせたり、ネットワークの接続を確認したり、RAMの使用状況をモニターしたり等）をしながらそのバッファで演奏を行うのです。全てうまく実行されると、コンピュータはその他の作業を完了しバッファが空になる前にバッファを次のデータで一杯にします。このようにしてマルチ・タスキング（一度に複数の仕事をしながらオーディオを完全に再生することができるのです）。

オーディオのバッファは、コンピュータが再び次のデータを入れる前に空になることがあれば、オーディオ再生はコンピュータがバッファを満たすまで停止します。この音の欠落は大変に速い速度で発生するので大きなギャップに感じることはありませんが、クリックやポップ等のノイズに聞こえたり音が歪んだようにも聞こえます。一旦これが発生すると解決策はCPUの負荷を軽くするか（コンピュータの時間を消費している不必要なソフトウェアを閉じる）、オーディオ・バッファのサイズを大きくして、バッファでより長く演奏ができるようにします（コンピュータに他の作業を実行する十分な時間を与えます）。

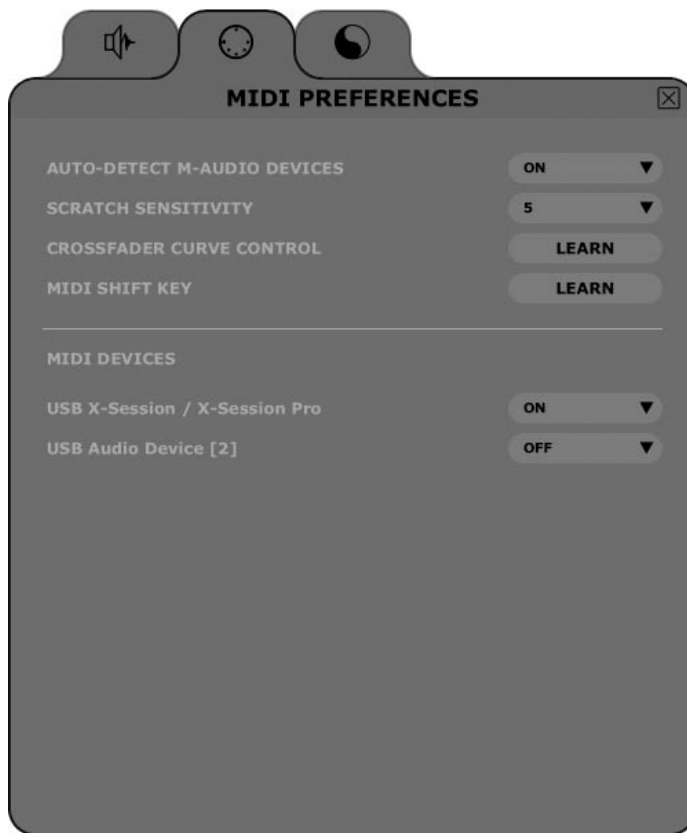
それでは、どうしてバッファ・サイズを大きくしてドロップアウトを防がないのでしょうか。問題は、バッファ・サイズを大きくするとシステムのレイテンシーを大きくすることになるからです。レイテンシーは、コンピュータに作業の指令（EQ Killを有効にする等）を出してから、その結果が実際に聞こえて来るまでの時間のずれのことです。オーディオ・バッファが大きいとバッファは中にある全てのデータを演奏してから新たなEQの変化がオーディオに聞こえます。DJ演奏において、DJは正確なタイミングで作業をこなす必要があるためこれは脅威になります。

解決策は、バッファ・サイズをオーディオに何の問題も生じさせないようできるだけ小さく設定することです。これは、バーを次々に下げるリンボー・ダンスのようなものです：

1. デッキにソングをロードし再生します。
2. 再生中にAudio Preferences (オーディオ・プリファレンス) のタブを開きます。
3. ソングが適切に再生していれば、Buffer Size (バッファ・サイズ) のメニューをクリックし現在の値に一番近い小さいバッファ・サイズを選択します。バッファは即座に更新されソングの演奏は続行します。
4. ソングを少しの間聞いてみます。もしソングがクリーン（クリックやポップ、グリッチの無い状態）であれば、バッファ・サイズをもう一段階小さな値に設定します。
5. この作業を繰り返し音質を確認しながらオーディオに雑音が入り始めるまで調整します。
6. 下限が検出されてから、バッファ・サイズをその値よりも1つ上位の値（作業中、下限に到達する1つ前に確認した値）に設定するとシステムは最適化されます。

Torq LEは、これらの設定では大変に安定していますが、CPU負荷を上げるとシステム・パフォーマンスが損なわれることを覚えておく必要があります。

MIDIタブ



このタブでは、自動セットアップとMIDIコントロールに関するオプションを説明します。

Auto-Detect M-Audio Devices ([On]/Off) (M-Audio機器の自動検知) (オン/オフ)

このオプションが有効の時、オーディオやMIDIインターフェイスのオプションを自動的にシステムに接続されているSynchroScienceやM-Audioのコントローラやインターフェイス (X-Session Pro等) にあわせて設定します。これによりTorq LEと接続された機器が適切に動作します。

注意：コントローラをカスタム・マッピングしたりオーディオ・インターフェイスに特別な割当てをしてあり、次回に起動する時にTorq LEがマッピング等をデフォルトの設定に変更するのを避けたい場合は、このオプションを無効にします。

Scratch Sensitivity (スクラッチ感度)

このオプションでは、MIDIコントローラから送信されたメッセージにデッキがいかに速く反応するかを設定します。スクラッチDJのように波形を前後に動かすコントローラ用にデザインされています。

1. 数値を上げるとデッキは早く反応します。
2. 数値を下げるとデッキは遅く反応します。

Crossfader Curve Control (クロスフェーダ・カーブ・コントロール)

このオプションでは、MIDIコントローラにCrossfader Curve (クロスフェーダ・カーブ) のパラメータを割り当てることができます。これによりMIDIコントローラのノブやスライダを使用してCrossfader Curve (クロスフェーダ・カーブ) をコントロールできます。

1. 「Learn」 ボタンを押して有効にします。
2. MIDIコントローラで任意のコントローラを動かします。
3. Torq LEは即座にそのコントローラにCrossfader Curve (クロスフェーダ・カーブ) を割り当てます。コントローラを動かすとメイン・ウィンドウのクロスフェーダのグラフィックが動くことを確認して下さい。

MIDI SHIFT Key (MIDIシフト・キー)

Torq LEを使用する時、コンピュータのキーボードのSHIFTキーが頻繁に使用されます。このオプションでは、MIDIノートにTorq LE内の「SHIFT」としての機能に割り当てることができます。これによりSHIFTを使用するキーの組み合わせを外部のMIDIコントローラから全て操作することができます。MIDIノートを割り当てる方法は以下の通りです：

1. 「Learn」 ボタンを押して有効にします。
2. MIDIコントローラで任意のボタンまたはキーを押します。
3. Torq LEはボタンを即座にプログラム内でShiftキーとして使用できるように割り当てます。

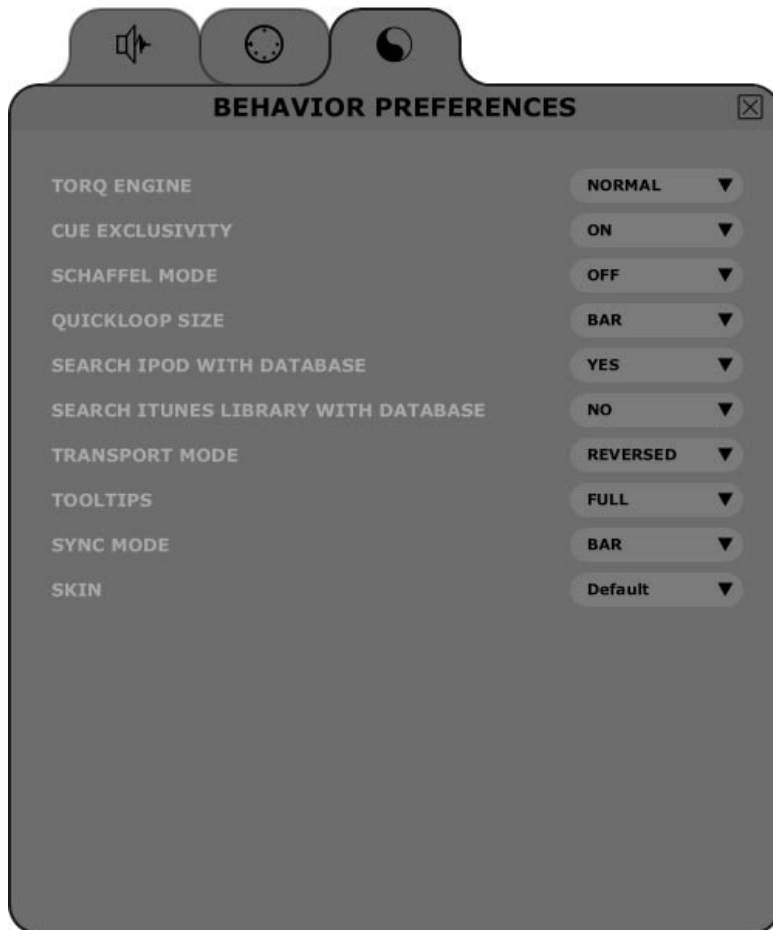
MIDI Devices (MIDI機器)

Torq LEにより現在検知されているMIDI機器がリストされます。各機器の名前の横にはボックスがあり機器のオン/オフを選択することができます。

任意の機器をTorq LEのコントローラとして使用する場合、ドロップダウン・メニューからOnを選択して有効にします。Torq LEで使用しない機器はOffに設定しておきます。

Miscellaneous (その他) タブ

このタブには、Torq LEの特定の機能の動作に影響する様々なオプションが含まれます。



Torq Engine (Torqエンジン)

この設定でTorq LEのAudio Engine (オーディオ・エンジン) のNormal (通常) モードとEconomy (節約) モードを切替えます。高速で処理ができないコンピュータを使用していない限りは、このオプションはNormal (通常) のままにしておきます。Economy (節約) モードは、グラフィックの品質を悪化させサウンドの質にも悪影響を及ぼしますが、古いコンピュータはEconomy (節約) モードの方がTorq LEはうまく動作します。

Cue Exclusivity (キュー・エクスクルーシビティ)

このオプションは、デッキのCue (キュー) ボタンの動作を決定します。

このボタンをONにしてチャンネルのCue (キュー) ボタンを押すとその他のチャンネルの他のCue (キュー) ボタンがオフになります。つまり、ヘッドフォンから聞こえるオーディオ・ソースは1つだけになります。

このボタンをOFFにすると同時に複数チャンネルをキューイングできます。これらのキュー・ソースは、ヘッドフォンで同時にミックスして聴くことができます。キュー・ミックスには、各チャンネルが加えられますが全体のキュー・バスのボリュームはクリッピングを防ぐために3dB分減衰します。

Schaffel Mode (シャッフル・モード)

Schaffelはドイツ語で「シャッフル」という意味ですが、4分の4拍子の厳格な調子とは対照的にトリプレットの軽快な調子に基づいた大衆的なダンス音楽の形式です。

このモードが有効の時、エフェクトは全て（またはエフェクトの値をクオンタイズするパラメータ全て）がクオンタイズのオプションの中にトリプレットを含みます。

Strobe (ストロボ) エフェクトを例に説明します。Parameter (パラメータ) のノブでStrobe (ストロボ) エフェクトの値を変更します。通常、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32のいずれかを選択します。Schaffelを有効にするとノブは1/2、1/4、1/8、1/8T、1/16T、1/32Tにクオンタイズします。この場合、数字の後のTはトリプレットの意味です。

注意: トリプレットのクオンタイズ化によりエフェクトまたはパラメータが軽快、ファンキーでリズムカルな調子になります。

QuickLoop Size (クイックループ・サイズ)

このオプションでは、QuickLoop (クイックループ) のボタンの動作を決定します。

このプリファレンスを「Bar」に設定するとQuickLoop (クイックループ) は小節の長さでループされます。このプリファレンスを「Beat」に設定するとQuickLoop (クイックループ) はビートの長さでループされます。

Search iPod with Database (データベースでiPodを検索)

このオプションをYesに設定すると接続したiPodの音楽ライブラリは全てDatabase (データベース) に統合され即座に検索が可能になります。オプションをNoに設定するとBrowser (ブラウザ) ウィンドウでiPod Library (iPodライブラリ) を選択して内容を確認する必要があります。

Search iTunes Library with Database (データベースでiTunesを検索)

Apple社のiTunesがコンピュータにインストールされている場合、Yesを選択するとiTunesのMusic Library (音楽ライブラリ) がTorq LEのDatabase (データベース) に統合されます。iTunes Libraryに現在含まれるソングは、全てTorq LEからDatabase (データベース) に含まれるその他全てのフォルダと共にアクセスが可能です。このオプションでNoを選択するとBrowser (ブラウザ) ウィンドウでiTunes Libraryを選択して内容を確認する必要があります。

Transport Mode (トランスポート・モード)

デッキに含まれるNudge (ナッジ) ボタンとOffset (オフセット) ボタンは、このプリファレンスを使用して方向を逆にすることができます。デフォルトでは、このオプションはReverse (逆) に設定されているため、ボタンはDJが使用するターンテーブルと同様の方法でボタンが動作します。ソングのスピードを上げるために右側を押す代わりに左を押します (ヴァイナルの最も近くにある端がDJの前を回るのと同じです)。「テープマシン」のスタイルでコントロールする場合は、このオプションを「Normal」を選択します。

Tooltips (ツールチップ)

Torq LEのコントローラ上でマウスを使用するとコントローラの機能を記述したTooltip (ツールチップ) が表示されます。更にマウスでノブやスライダを動かすとTooltip (ツールチップ) はノブやスライダの新たな設定値を表示します。このオプションではTooltip (ツールチップ) の表示のレベルを選択します。

- » **Full**—これを選択するとコントローラの上にマウスを置いた時もコントロールを操作した時も全てのTooltip (ツールチップ) が表示されます。
- » **Adjust**—これを選択するとノブやスライダに適用された調整だけを表示するTooltip (ツールチップ) のみが表示されます。コントローラの上にマウスを置いた時の通常のTooltip (ツールチップ) は表示されません。
- » **None**—これを選択するとTooltip (ツールチップ) は全て無効になります。

Sync Mode (シンク・モード)

このオプションでは、Torq LEで使用されるシンクロナイゼーション (同期) のレベルを決定します。

- » **Bar**—これを選択するとTorq LEはシンクさせるデッキをもう一方のデッキのダウンビートまたはMaster Tempo (マスター・テンポ) に一致させます。トラックの配置を調整しようとしてもTorq LEにより両方のトラックがシンクしてダウンビートが整列するように戻されます (Phase Grid (位相グリッド) の太線は常に一列に並びます)。
- » **Beat**—これを選択するとTorq LEはシンクさせるデッキをもう一方のデッキのテンポとビートまたはMaster Tempo (マスター・テンポ) に一致させますが、Phase Grid (位相グリッド) のダウンビートを無視します。トラックの配置を調整しようとしてもTorq LEにより両方のトラックが一番近いビートが一列に並ぶようにシンクします (それぞれのPhase Grid (位相グリッド) の太線が交互に並ぶ場合があります)。
- » **Tempo Only**—これを選択するとTorq LEはシンクさせるデッキのテンポのみをもう一方のデッキのテンポまたはMaster Tempo (マスター・テンポ) に一致させます。デッキのPlay (再生) ボタンを押すとTorq LEはソングの配置を整列させません。DJの裁量で的確な瞬間に音楽を開始しトラックの配置を一列に並ばせません。

Skin (スキン)

このオプションではTorq LEの異なる「Skin (スキン)」または色調を選択できます。

1. クリックしてSkinのドロップダウン・メニューを表示します。
2. リストからスキン (色調) を選択します。
3. Torq LEは色調を変更しますが、インターフェイス内の形や配置は維持されます。

M-AUDIO

X-SESSION PROについて

M-AudioのX-Session Proは、Torq LEに完璧でハンズオンなコントロールを提供するようにデザインされたハードウェア・コントロール・サーフィスです。X-Session Proコントローラは、従来のDJミキサーと同様の外観とフィールを実現し、ソングの開始、停止、キューイング、2つのデッキ間のクロスフェードはもとより、コンピュータやマウスを使用せずにEQやエフェクトを加えることができます。X-Session Proのボタンを押したり、ノブを回したり、フェーダを動かすと、それぞれTorq LEの画面上で対応するボタン、ノブ、フェーダが動くのがわかります。

スタイリッシュで軽量、携帯型のデザインのX-Session Proは、ノートパソコンで活躍するDJにとって最適のギアです。USBケーブル1本でコンピュータと接続し電源はUSBバスから供給されるため、かさばる電源アダプタを持ち歩く必要もなく場所を選ばず簡単にセットアップやミックスが可能です。

Chapter

13

X-SESSION PROについて 56

コントローラとコネクタ 57

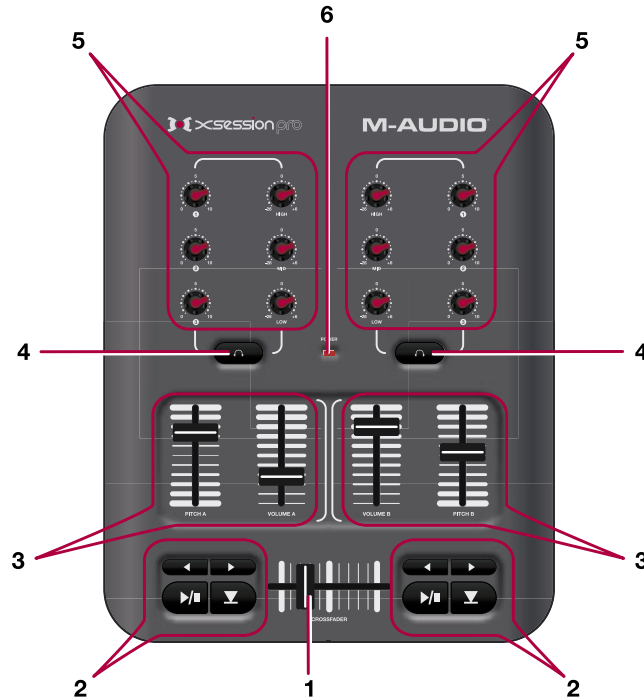
トップパネル 57



リアパネル 58

コントローラとコネクタ

トップパネル

注意：クロスフェーダ（1）と電源インジケータLED（6）を除き、トップパネルに装備されたノブ、ボタン、スライダは左右対称です。X-Session Proの左側にあるコントローラはTorq LEの左のデッキに対応し、X-Session Proの右側にあるコントローラはTorq LEの右側のデッキに対応します。



1. **クロスフェーダ** - このフェーダは、Torq LEのクロスフェーダをコントロールし、曲と曲のつなぎに使用します。クロスフェーダの使い方については、42ページで確認して下さい。
2. **トランスポート・コントロール**  - これらのボタンは、Torq LEの各デッキのプレイ/ポーズ/キューイング/巻戻し/早送りするのに使用します。詳細は11/12ページで確認して下さい。
3. **縦型フェーダ（ピッチ、ボリューム）** - これらの縦型フェーダは、Torq LEの各デッキのピッチやボリューム等に割当てることができます。ピッチスライダについての詳細は14ページ、ボリューム・スライダについては42ページを参照して下さい。
4. **ヘッドフォン・キュー・ボタン**  - これらのボタンはDJのヘッドフォン・ミックスで聞かためのデッキを選択します。Torq LEのキュー・ミキシングについての詳細は41ページを参照して下さい。
5. **ユーザー・ノブ（1、2、3、High、Mid、Low）** - これらのノブは、各デッキのエフェクトやEQのレベルをコントロールします。ノブ1、2、3ではフィルタ、フェーザー、ストロボのエフェクトの量をコントロールし、High、Mid、LowのノブはEQの高周波域、中周波域、低周波域をそれぞれ設定します。EQについての詳細は41ページ、エフェクトについては47ページを参照して下さい。
6. **電源インジケータLED（電源）** - この赤色LEDは、X-Session Proが電源を受信すると点灯し電源スイッチ（8）でオン/オフを切り換えることができます。

リアパネル



7. **USB端子** – USB端子は、電源供給とMIDI信号を送受信します。使用しているコンピュータのUSB端子と接続します。
8. **電源スイッチ** – このスイッチは、X-Session Proの電源オン/オフを切替えます。
9. **Aボタン (A)** – このボタンからは、X-Session Proの高度なプログラミング機能にアクセスすることができますが、ここでは割愛されています。詳細はX-Session Proユーザーガイドで確認して下さい。X-Session Proユーザーガイドは<http://www.m-audio.jp/>でダウンロードできます。
10. **リセット・ボタン (Reset)** – このボタンからはX-Session Proの高度なプログラミング機能にアクセスすることができますが、ここでは割愛されています。詳細はX-Session Proユーザーガイドで確認して下さい。X-Session Proユーザーガイドは<http://www.m-audio.jp/>でダウンロードできます。
11. **Kensingtonロック端子** – この端子は、Kensington社製の盗難防止用安全ケーブルに対応します。

ResetまたはAボタンを押すとコントローラの機能が限定されるモードになる場合があります。M-Audioのテクニカル・サポートまたはサポート関連書類により指示がない限りResetまたはAボタンを押さないで下さい。

付録

Preset Key Assignments (プリセット・キー割当て)

Torq LEは、キーボードの割当てに関しては基本的に「白紙状態」ですが、Torq LEインターフェイスの様々な機能に設定されたキーが幾つか含まれます：

グローバルなキーコマンド

F1—デッキAに選択したトラックをロード	Shift+1—QuickCue 1をデッキAに設定
F2—デッキBに選択したトラックをロード	Shift+2— QuickCue 2をデッキAに設定
F5—ブラウザ・ウインドウの更新	Shift+3— QuickCue 3をデッキAに設定
F6—最大ブラウザ・ビュー	Shift+4— QuickCue 4をデッキAに設定
F7—最大波形・ビュー	Shift+5— QuickCue 5をデッキAに設定
1—デッキAのQuickCue 1	Shift+6— QuickCue 1をデッキBに設定
2—デッキAのQuickCue 2	Shift+7— QuickCue 2をデッキBに設定
2—デッキAのQuickCue 2	Shift+8— QuickCue 3をデッキBに設定
4—デッキAのQuickCue 4	Shift+9— QuickCue 4をデッキBに設定
5—デッキAのQuickCue 5	Shift+0— QuickCue 5をデッキBに設定
6—デッキBのQuickCue 1	
7—デッキBのQuickCue 2	
8—デッキBのQuickCue 3	
9—デッキBのQuickCue 4	
0—デッキBのQuickCue 5	

Windowsのキー・コマンド

ALT+F4—Quit Torq LE
CTRL+,—Open Preferences

Macのキー・コマンド

CMND+Q—Quit Torq LE
CMND+,—Open Preferences

Chapter

14

付録	59
プリセット・キー割当て	59
グローバルなキーコマンド	59
Windowsのキー・コマンド	59
Macのキー・コマンド	59
製品保証	60
保証規定	60
ユーザー登録	60

製品保証

保証規定

エムオーディオでは安全上のご注意に基づいて適切に使用されている場合に限り、本製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間となり修理は無償で行います。しかしながら、不適切な使用方法による破損の場合、ご購入者が所有していない場合、エムオーディオでのユーザー登録が済みでない場合などは保証の対象となりません。但し、電源アダプタやケーブルなどの付属品は、適切な使用の結果不具合が生じた場合でも保証対象には含まれません（初期不良の場合は除く）。お使いの製品に対応する保証規定はwww.m-audio.jp/warrantyでご覧下さい。

エムオーディオへ製品を送付する場合には、事前にエムオーディオのRA（Return Authorization）番号を取得する必要があります。製品のRA番号を取得するには、エムオーディオへご連絡頂ければ、エムオーディオのカスタマーサービスが症状などをお伺いしエムオーディオへ製品の送付が必要と判断した場合にRA番号を発行させていただきます。製品のRA番号を取得後、具体的な症状や送付理由を書面に記述し、製品を保護する安全な梱包を施した上、外装パッケージにRA番号を明記しM-Audioまで送付下さい。製品の修理には発送時の送料、返却時の送料と発生し得る手数料はご購入者の負担となります（初期不良の場合は除く）。

ユーザー登録

エムオーディオへお問い合わせ頂く場合には、エムオーディオでのユーザー登録を完了しなければ製品保証や技術的なサポートを受けることができません。ユーザー登録を行うには、次の2つの方法があります。環境に合わせた方法でユーザー登録を行って下さい。1.) コンピュータで（一般的なWebブラウザ）エムオーディオWebサイトへアクセスできる方：エムオーディオ オンラインユーザー登録ページ<http://web.m-audio.jp/register/>にて、必要事項を入力して送信して下さい。2.) 携帯電話でエムオーディオWebサイトへアクセスできる方：エムオーディオ モバイルサイトのオンラインユーザー登録ページ<http://web.m-audio.jp/mobile/>にて、必要事項を入力して送信して下さい。（注：ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。）



M-Audio USA 5795 Martin Rd., Irwindale, CA 91706	
Technical Support	
web:	www.m-audio.com/tech
tel (pro products):	(626) 633-9055
tel (consumer products):	(626) 633-9066
fax (shipping):	(626) 633-9032
Sales	
e-mail:	sales@m-audio.com
tel:	1-866-657-6434
fax:	(626) 633-9070
Web	www.m-audio.com

M-Audio U.K. Floor 6, Gresham House, 53 Clarendon Road, Watford WD17 1LA, United Kingdom	
Technical Support	
e-mail:	support@maudio.co.uk
tel:(Mac support):	+44 (0)1765 650072
tel: (PC support):	+44 (0)1309 671301
Sales	
tel:	+44 (0)1923 204010
fax:	+44 (0)1923 204039
Web	www.maudio.co.uk

M-Audio France Floor 6, Gresham House, 53 Clarendon Road, Watford WD17 1LA, United Kingdom	
Renseignements Commerciaux	
tel :	0 810 001 105
e-mail :	info@m-audio.fr
Assistance Technique	
PC :	0 820 000 731
MAC :	0 820 391 191
Assistance Technique	
e-mail :	support@m-audio.fr mac@m-audio.fr
fax :	+33 (0)1 72 72 90 52
Site Web	www.m-audio.fr

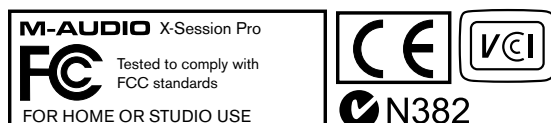
M-Audio Germany Kuhallmand 34, D-74613 Ohringen, Germany	
Technical Support	
e-mail:	support@m-audio.de
tel:	+49 (0)7941 - 9870030
fax:	+49 (0)7941 98 70070
Sales	
e-mail:	info@m-audio.de
tel:	+49 (0)7941 98 7000
fax:	+49 (0)7941 98 70070
Web	www.m-audio.de

M-Audio Canada 1400 St-Jean Baptiste Ave. #150, Quebec City, Quebec G2E 5B7, Canada	
Technical Support	
e-mail:	techcanada@m-audio.com
phone:	(418) 872-0444
fax:	(418) 872-0034
Sales	
e-mail:	infocanada@m-audio.com
phone:	(866) 872-0444
fax:	(418) 872-0034
Web:	www.m-audio.ca

M-Audio Japan アビッドテクノロジー株式会社 エムオーディオ事業部: 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-18-10 Avid Technology K.K. : 2-18-10 Marunouchi, Naka-Ku, Nagoya, Japan 460-0002	
カスタマーサポート (Technical Support)	
e-mail :	win-support@m-audio.jp
e-mail (Macintosh 環境専用) :	mac-support@m-audio.jp
tel :	052-218-0859 (10:00~12:00/13:00~17:00)
セールスに関するお問い合わせ (Sales)	
e-mail:	info@m-audio.jp
tel:	052-218-3375
fax:	052-218-0875
Web:	www.m-audio.jp

警告: 本製品には鉛を含む化学物質が含まれます。癌や出生異常、その他生殖への危害の原因となる物質として米国カリフォルニア州で知られています。ご使用の後は手を洗って下さい。

© 2007 Avid Technology, Inc. 無断複写、転載を禁じます。製品の特徴、仕様、システム環境条件、在庫状況は予告無く変更になる場合があります。AvidとM-AudioとTorqとMixLabとX-Session ProとSynchroScienceはAvid Technology, Incの商標または登録商標です。ここに記載されているその他全ての商標または登録商標はそれぞれの所有者に属します。



Free Manuals Download Website

<http://myh66.com>

<http://usermanuals.us>

<http://www.somanuals.com>

<http://www.4manuals.cc>

<http://www.manual-lib.com>

<http://www.404manual.com>

<http://www.luxmanual.com>

<http://aubethermostatmanual.com>

Golf course search by state

<http://golfingnear.com>

Email search by domain

<http://emailbydomain.com>

Auto manuals search

<http://auto.somanuals.com>

TV manuals search

<http://tv.somanuals.com>